

申命記 21回
「仲介者モーセ」
申 5：22～33

1. はじめに

- (1) 申命記の構造（宗主权契約に基づく4つの説教）
 - ①第1の説教：歴史の回顧（1：5～4：43）
 - ②第2の説教：契約に基づく義務（4：44～26：19）
 - ③第3の説教：祝福と呪いの宣言（27：1～29：1）
 - ④第4の説教：契約条項のまとめ（29：2～30：20）

- (2) 第2の説教：契約に基づく義務
 - ①総論：臣下の義務（4：44～5：33）
 - ②全的従順の呼びかけ（6～11章）
 - ③律法の解説と日常生活への適用（12：1～26：15）
 - ④【主】に対する誓約（26：16～19）

2. メッセージのアウトライン

- (1) 仲介者モーセ（5：22）
- (2) 民のかしらと長老たちの懇願（5：23～27）
- (3) 【主】からの回答（5：28～31）
- (4) 民に対するモーセの勧告（5：32～33）

3. 結論

- (1) シナイ契約と新しい契約の対比
- (2) 不信仰と信仰の対比

仲介者モーセについて学ぶ。

I. 仲介者モーセ（5：22）

1. 22節

Deu 5:22 これらのことばを、【主】はあの山で火と雲と暗黒の中から、あなたがたの集会全体に大声で告げられた。ほかのことは言われなかった。そして主はそれを二枚の石の板に書いて、私に授けてくださった。

- (1) 十戒の源
 - ①「これらのことば」（these words）とは、十戒のことである。
 - ②十戒の源は、神ご自身である。

③【主】は、イスラエルの集会全体に大声で告げられた。

(2) 十戒が与えられたときの状況

①「【主】はあの山で火と雲と暗黒の中から、…大声で告げられた」

②【主】はシャカイナグローリーの中から語られた。

③出 19 : 18

Exo 19:18 シナイ山は全山が煙っていた。【主】が火の中であって、山の上に降りて来られたからである。煙は、かまどの煙のように立ち上り、山全体が激しく震えた。

(3) 【主】が語られたという証拠

①「主はそれを二枚の石の板に書いて、私に授けてくださった」

②二枚の石の板は、契約書の正と副と考えられる。

③「ほかのことは言われなかった」は、十戒の完結性を表わしている。

④十戒は、神が直接語られた。

⑤それ以外の律法は、神がモーセを通して語られた。

⑥申 9 : 10～11

Deu 9:10 【主】は、神の指で書き記された石の板二枚を私に授けてくださった。その上には、あの集まりの日に、【主】が山で火の中からあなたがたに告げられたことばが、すべてそのまま書かれていた。

Deu 9:11 こうして四十日四十夜の終わりに、【主】はその二枚の石の板、すなわち契約の板を私に授けてくださった。

II. 民のかしらと長老たちの懇願 (5 : 23～27)

1. 23～24 節

Deu 5:23 あなたがたが闇の中からその御声を聞き、またその山が火で燃えていたときに、あなたがた、すなわち、あなたがたの部族のすべてのかしらたちと長老たちが私のもとに近づき、

Deu 5:24 そして言った。「私たちの神、【主】は今、ご自分の栄光と偉大さを私たちに示されました。私たちは火の中から御声を聞きました。今日、私たちは、神が人に語られても人が生きているのを見ました。

(1) モーセは、新しい世代のイスラエルに、この時の情景を詳しく説明している。

①新しい世代のイスラエルは、目撃者情報を聞いて、それを信じる。

②私たちも、目撃者情報を聞いて、キリストの死、埋葬、復活を信じる。

(2) 部族のすべてのかしらたちと長老たちがモーセに言った。

- ①自分たちは、【主】の栄光と偉大さを目撃した。
- ②自分たちは、火の中から御声を聞いた。
- ③自分たちは、神が人に語られても、人が生きているのを見た。
- ④しかし、この体験を当然のこととってはいいない。
- ⑤創 32 : 30

Gen 32:30 そこでヤコブは、その場所の名をペヌエルと呼んだ。「私は顔と顔を合わせて神を見たのに、私のいのちは救われた」という意味である。

⑥黙 1 : 17～18

Rev 1:17 この方を見たとき、私は死んだ者のように、その足もとに倒れ込んだ。すると、その方は私の上に右手を置いて言われた。／「恐れることはない。わたしは初めであり、終わりであり、

Rev 1:18 生きている者である。わたしは死んだが、見よ、世々限りなく生きている。また、死とよみの鍵を持っている。

2. 25～27 節

Deu 5:25 今、なぜ私たちは死ななければならないのでしょうか。この大きい火は私たちが焼き尽くそうとしています。もしこの上なお私たちの神、【主】の御声を聞くなら、私たちは死んでしまいます。

Deu 5:26 いったい肉なる者で、私たちのように、火の中から語られる生ける神の声を聞いて、なお生きている者があったでしょうか。

Deu 5:27 あなたが近づいて行き、私たちの神、【主】が言われることをすべて聞き、私たちの神、【主】があなたにお告げになることをすべて私たちに告げてください。私たちは聞いて行きます。」

- (1) 民の指導者たちは、大いに恐れた。
 - ①これ以上、【主】の御声を聞くなら、自分たちは死んでしまう。
 - ②神が人の前に現れる場合は、裁きを行うためであるという認識があった。
 - ③この箇所では、神は契約の民に教えを与えるために現れた。

- (2) イスラエルの民の神体験は、3つの結果をもたらした。
 - ①自分たちは道徳的に不完全であるという認識が生まれた。
 - ②自分たちは有限で、死ぬべき者であるという認識が生まれた。
 - ③神の戒めに忠実に従う必要があるという認識が生まれた。

*詩 119 : 71

Psa 119:71 苦しみにあったことは 私にとって幸せでした。それにより 私はあなたのおきてを学びました。

(3) 彼らは、モーセが仲介者となってくれるように懇願した。

①【主】→モーセ→イスラエルの民

Ⅲ. 【主】からの回答（5：28～31）

1. 28～29節

Deu 5:28 【主】は、あなたがたが私に話していたとき、あなたがたのことばを聞かれた。

【主】は私に言われた。「わたしは、この民があなたに話していることばを聞いた。彼らの言ったことはみな、もつともである。

Deu 5:29 彼らの心がこのようであって、いつまでも、わたしを恐れ、わたしのすべての命令を守るようになってほしい。そうすれば、彼らもその子孫も永久に幸せになる。

(1) この部分は、出エジプト記には記録されていない情報である。

①新しい世代のために、モーセは詳細な情報を提供している。

(2) 【主】は、民の話の内容に同意された。

①道徳的に不完全である。

②死ぬべき存在である。

③神の戒めに忠実に従う必要がある。

(3) 【主】は、彼らが誓いを破ることを知っておられた。

「どうか、彼らが生きている限りわたしを畏れ、わたしの戒めをことごとく守るこの心を持ち続け、彼らも、子孫もとこしえに幸いを得るように」（新共同訳）

①【主】に従うためには、一時的な感情以上のものが必要である。

②意志に基づく信仰が必要である。

2. 30～31節

Deu 5:30 さあ、彼らに『あなたがたは自分の天幕に帰りなさい』と言え。

Deu 5:31 しかし、あなたは、わたしとともにここにとどまれ。わたしは、あなたが彼らに教えるすべての命令、すなわち掟と定めをあなたに告げよう。彼らは、わたしが与えて所有させようとしているその地で、それを行うのだ。」

(1) 【主】からの指示

①民は天幕に帰るように命じられた。

②モーセは、仲介者としてそこに留まるように命じられた。

③モーセは、神から掟と定めを受け取り、それを民に伝える。

④民は、約束の地でそれを行う。

IV. 民に対するモーセの勧告（5：32～33）

1. 32節

Deu 5:32 あなたがたは、あなたがたの神、【主】が命じられたとおりに守り行いなさい。右にも左にもそれではならない。

(1) モーセは、「総論：臣下の義務（4：44～5：33）」のまとめを語っている。

①「右にも左にもそれではならない」とは、律法を忠実に行えということ。

②脇道に逸れないで、ハイウェイを堂々と歩む。

③箴4：26～27

Pro 4:26 あなたの足の道筋に心を向けよ。／そうすれば、あなたのすべての道は堅く定まる。

Pro 4:27 右にも左にもそれではならない。／あなたの足を悪から遠ざけよ。

④イザ30：21

Isa 30:21 あなたが右に行くにも左に行くにも、／うしろから「これが道だ。これに歩め」／とすることばを、あなたの耳は聞く。

2. 33節

Deu 5:33 あなたがたの神、【主】が命じられた道をあくまで歩み続けなければならない。あなたがたが生き、幸せになり、あなたがたが所有するその地で、あなたの日々が長く続くようにするためである。

(1) イスラエルの民は、継続した歩みを保持する必要がある。

①継続した歩みは、約束の地での祝された生活をもたらす。

結論

1. シナイ契約と新しい契約の対比

(1) ヘブ12：18～21

Heb 12:18 あなたがたが近づいているのは、手でさわれるもの、燃える火、黒雲、暗闇、嵐、

Heb 12:19 ラッパの響き、ことばのとどろきではありません。そのことばのとどろきを聞いた者たちは、それ以上一言も自分たちに語らないでくださいと懇願しました。

Heb 12:20 彼らは、「たとえ獣でも、山に触れるものは石で打ち殺されなければならない」という命令に耐えることができませんでした。

Heb 12:21 また、その光景があまりに恐ろしかったので、モーセは「私は怖くて震える」と言いました。

(2) ヘブ12：22～24

Heb 12:22 しかし、あなたがたが近づいているのは、シオンの山、生ける神の都である天上のエルサレム、無数の御使いたちの喜びの集い、

Heb 12:23 天に登録されている長子たちの教会、すべての人のさばき主である神、完全な者とされた義人たちの霊、

Heb 12:24 さらに、新しい契約の仲介者イエス、それに、アベルの血よりもすぐれたことを語る、注ぎかけられたイエスの血です。

(3) ヘブ 12 : 25

Heb 12:25 あなたがたは、語っておられる方を拒まないように気をつけなさい。地上において、警告を与える方を拒んだ彼らが処罰を免れなかったとすれば、まして、天から警告を与える方に私たちが背を向けるなら、なおのこと処罰を免れられません。

2. 不信仰と信仰の対比

(1) マタ 23 : 37~39

Mat 23:37 エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者よ。わたしは何度、めんどりがひなを翼の下に集めるように、おまえの子らを集めようとしたことか。それなのに、おまえたちはそれを望まなかった。

Mat 23:38 見よ。おまえたちの家は、荒れ果てたまま見捨てられる。

Mat 23:39 わたしはおまえたちに言う。今から後、『祝福あれ、主の御名によって来られる方に』とおまえたちが言う時が来るまで、決しておまえたちがわたしを見ることはない。」

(2) 2 コリ 5 : 19~21

2Co 5:19 すなわち、神はキリストにあって、この世をご自分と和解させ、背きの責任を人々に負わせず、和解のことばを私たちに委ねられました。

2Co 5:20 こういうわけで、神が私たちを通して勧めておられるのですから、私たちはキリストに代わる使節なのです。私たちはキリストに代わって願います。神と和解させていただきなさい。

2Co 5:21 神は、罪を知らない方を私たちのために罪とされました。それは、私たちがこの方にあって神の義となるためです。

申命記 22回
「聞け、イスラエルよ」
申6：1～25

1. はじめに

(1) 申命記の構造（宗主権契約に基づく4つの説教）

- ①第1の説教：歴史の回顧（1：5～4：43）
- ②第2の説教：契約に基づく義務（4：44～26：19）
- ③第3の説教：祝福と呪いの宣言（27：1～29：1）
- ④第4の説教：契約条項のまとめ（29：2～30：20）

(2) 第2の説教：契約に基づく義務

- ①総論：臣下の義務（4：44～5：33）
- ②全的従順の呼びかけ（6～11章）
- ③律法の解説と日常生活への適用（12：1～26：15）
- ④【主】に対する誓約（26：16～19）

(3) モーセは、十戒の解説を終えた。

- ①十戒は、【主】が民に直接語られた戒めである。
- ②この箇所から、モーセだけが聞いた律法の説明に入る。
- ③この箇所では、個々人の【主】への従順が強調される。

2. メッセージのアウトライン

- (1) 従順に伴う祝福（6：1～3）
- (2) 【主】を愛することの重要性（6：4～9）
- (3) 繁栄した時の注意（6：10～19）
- (4) 契約の継承（6：20～25）

3. 結論

- (1) 家庭教育の重要性
- (2) 繁栄の落とし穴

祝福を受ける秘訣について学ぶ。

I. 従順に伴う祝福（6：1～3）

1. 1節

Deu 6:1 これは、あなたがたの神、【主】があなたがたに教えよと命じられた命令、すなわち掟と定めである。あなたがたが渡って行って所有しようとしている地で、それらを行うようにするためである。

- (1) 掟と定めは、約束の地でそれらを行うために与えられている。
 - ① 掟と定めを要約すると、「【主】を愛する」ことに尽きる（申 6:5 参照）。
 - ② 【主】への愛が、律法の要約であり、従順な歩みをする動機である。
 - ③ 主イエスも、同じことを言われた（ヨハ 14:21）

Joh 14:21 わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛している人です。わたしを愛している人はわたしの父に愛され、わたしもその人を愛し、わたし自身をその人に現します。」

2. 2～3 節

Deu 6:2 それは、あなたの一生の間、あなたも、そしてあなたの子も孫も、あなたの神、【主】を恐れて、私が命じるすべての主の掟と命令を守るため、またあなたの日々が長く続くためである。

Deu 6:3 イスラエルよ、聞いて守り行いなさい。そうすれば、あなたは幸せになり、あなたの父祖の神、【主】があなたに告げられたように、あなたは乳と蜜の流れる地で大いに増えるであろう。

- (1) 掟と定めが与えられている理由
 - ① 【主】を恐れることを学ぶため
 - ② 従順な生活を実行するため
- (2) 従順な生活には祝福が伴う。
 - ① 「あなたの日々が長く続くためである」（約束の地で長く繁栄する）
 - ② 約束の地は、「乳と蜜の流れる地」である。

II. 【主】を愛することの重要性（6:4～9）

1. 4 節

Deu 6:4 聞け、イスラエルよ。【主】は私たちの神。【主】は唯一である。

- (1) この節は、「シェマ」と呼ばれるユダヤ教の基本的な信仰告白である。
 - ① 【主】は、偶像の神々とは区別されるユニークなお方である。
 - * 偶像を礼拝する民は、安心を手に入れることはできない。
 - * 偶像は、気まぐれで道徳的に墮落しているので、信用できない。
 - * ひとつの神に仕えたとしても、他の神々の怒りを買う恐れがある。
 - ② 【主】だけが唯一の神である。
 - * 【主】は信頼できるので、イスラエルは不安から解放された。

(2) この節は、三位一体を否定したものではない。

- ①「神」（エロヒムという複数形）は、三位を暗示していると考えられる。
- ②「唯一」は、一体を暗示してと考えられる。

2. 5節

Deu 6:5 あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、【主】を愛しなさい。

- (1) 【主】を愛するとは、【主】との親密な関係を選び、律法に従順に歩むこと。
 - ①律法に従順であることが、【主】を愛することである。
 - ②その愛は、全人的な愛、全存在をかけた愛でなければならない。

3. 6～9節

Deu 6:6 私が今日あなたに命じるこれらのことばを心にとどめなさい。

Deu 6:7 これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたが家で座しているときも道を歩くときも、寝るときも起きるときも、これを彼らに語りなさい。

Deu 6:8 これをしるしとして自分の手に結び付け、記章として額の上に置きなさい。

Deu 6:9 これをあなたの家の戸口の柱と門に書き記しなさい。

(1) イスラエルの民が行うべきこと

- ①モーセが語る【主】の戒めを心にとどめる。
- ②子どもたちによく教え込む。
 - *生活の全般を通して、子どもたちに教える。
 - *家庭が最も重要な宗教教育の場となる。
 - *これは、正式な教育ではなく、日常的な教育である。
- ③「しるし」「記章」「戸口の柱と門」
 - *これらは比喩的言葉である。
 - *正統派のユダヤ人たちは、これを文字通りに解釈する。

III. 繁栄の落とし穴（6：10～19）

1. 10～12節

Deu 6:10 あなたの神、【主】は、あなたの父祖、アブラハム、イサク、ヤコブに誓われた地にあなを導き入れ、あなたが建てたのではない、大きくてすばらしい町々、

Deu 6:11 あなたが満たしたのではない、あらゆる良い物で満ちた家々、あなたが掘ったのではない掘り井戸、あなたが植えたのではない、ぶどう畑とオリーブ畑、これらをあなたに与えてくださる。それであなたは、食べて満ち足りるとき、

Deu 6:12 気をつけて、エジプトの地、奴隷の家からあなたを導き出された【主】を忘れないようにしなさい。

- (1) 【主】はイスラエルの民に、即席の繁栄を約束された。
 - ①町々、家々、井戸、ぶどう畑とオリーブ畑、食物が与えられる。
 - ②繁栄には危険が伴う。
 - *恵みを与えてくださる【主】を忘れる恐れがある。

2. 13～16節

Deu 6:13 あなたの神、【主】を恐れ、主に仕えなさい。また御名によって誓いなさい。

Deu 6:14 ほかの神々に、すなわち、あなたがたの周りにいる諸国の民の神々に従って行ってはならない。

Deu 6:15 あなたのうちにおられるあなたの神、【主】はねたみの神であるから、あなたの神、【主】の怒りがあなたに向かって燃え上がり、主があなたを大地の面から根絶やしにされることのないようにしなさい。

Deu 6:16 あなたがたがマサで行ったように、あなたがたの神である【主】を試みてはならない。

- (1) 【主】を恐れ、【主】に仕える。
 - ①このことを御名によって誓う。
 - ②御名による誓いは、誓った人を拘束する。

- (2) 【主】を忘れた場合は、必ず偶像礼拝に走る。
 - ①人には、神を礼拝する能力が与えられている。
 - ②と同時に、人は礼拝することを必要とする存在として創造されている。
 - ③それゆえ、【主】を礼拝しなくなると、偶像を礼拝するようになる。

- (3) 【主】はねたみの神である。
 - ①他人の持ち物を欲するという意味でのねたみは、罪である。
 - ②ご自身の栄光を偶像と分かち合うことはないというのは、善である。

- (4) さらに、【主】を試みることにも裁きが下る。
 - ①マサでの出来事（出 17：1～7）
 - ②苦難に遭っても、【主】を試みてはならない。

3. 17～19節

Deu 6:17 あなたがたの神である【主】の命令、主が命じられたさとしと掟を必ず守らなければならない。

Deu 6:18 【主】の目にかなう良いことをしなさい。そうすれば、あなたは幸せになり、【主】があなたの父祖たちに誓われた、あの良い地を所有することができる。

Deu 6:19 【主】が告げられたように、敵をことごとくあなたの前から追い払うことができる。

- (1) 試練の中でも【主】の命令に従順であるなら、【主】の守りが与えられる。
 - ①幸せになることができる。
 - ②先祖たちに誓われた、あの良い地を所有することができる。
 - ③敵をことごとく追い払うことができる。

IV. 契約の継承 (6 : 20~25)

1. 20~21 節

Deu 6:20 後になって、あなたの息子があなたに尋ねて、「私たちの神である【主】が命じられた、このさとしと掟と定めはどういうことですか」と言うなら、

Deu 6:21a あなたは自分の息子にこう言いなさい。

- (1) 親には、契約の内容と価値を子どもたちに教える責任がある。
 - ①日常生活という文脈の中で、それを行う（申 6 : 6~9 参照）。
 - ②家庭の中で信仰を論じることは、極めて重要なことである。
 - ③息子が神の律法について、父に質問する。
 - ④父は、あるパターンに基づいて回答する。

2. 21b~25 節

Deu 6:21b 私たちはエジプトでファラオの奴隷であったが、【主】が力強い御手をもって私たちをエジプトから導き出された。

Deu 6:22 【主】は私たちの目の前で、エジプトに対し、ファラオとその全家族に対して、大きくて害をもたらすしるしと不思議を行い、

Deu 6:23 私たちをそこから導き出された。それは、私たちの父祖たちに誓われた地に私たちを導き入れ、その地を私たちに与えるためであった。

Deu 6:24 それで【主】は、私たちがこのすべての掟を行い、自分たちの神である【主】を恐れるように命じられたのである。今日のように、いつまでも私たちが幸せになり、私たちが生かされるためである。

Deu 6:25 私たちの神、【主】が命じられたように御前でこのすべての命令を守り行うとき、それは私たちの義となるのである。」

- (1) 私たちは、エジプトで奴隷であった。
 - ①民族の歴史を回顧する。

- (2) 【主】は奇跡的な方法で、私たちをエジプトから導き出された。

- ①【主】は、エジプト全土とファラオを裁かれた。
- (3) 【主】の御業は、契約に基づくものである。
 - ①【主】は父祖たち（アブラハム、イサク、ヤコブ）と契約を結ばれた。
 - ②【主】は私たちに、約束の地を与えると約束された。
- (4) 【主】は私たちが繁栄するために、掟と定めを与えられた。
 - ①繁栄の秘訣は、【主】の命令に従うことである。

結論

1. 家庭教育の重要性

- (1) 親が子どもの教育に対して責任を持つ。
- (2) 公式の教育ではなく、日常生活を通じた教育である。
- (3) 先ず親自身が、【主】を愛することを学ぶ。

Deu 6:5 あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、【主】を愛しなさい。

- (4) 次に、自分が愛している【主】を愛するように、子どもに教える。

Deu 6:25 私たちの神、【主】が命じられたように御前でこのすべての命令を守り行うとき、それは私たちの義となるのである。」

- ①これは、「【主】への愛」の継承である。

(ILL) Dr. ピーターズ博士の息子への助言 「キリストを愛さずして…」

2. 繁栄の落とし穴

- (1) ダビデが最大の罪を犯したのは、成功を手にした時であった(2サム11章)。

2Sa 11:1 年が改まり、王たちが出陣する時期になった。ダビデは、ヨアブと自分の家来たちとイスラエル全軍を送った。彼らはアンモン人を打ち負かし、ラバを包囲した。しかし、ダビデはエルサレムにとどまっていた。

- (2) 箴 30 : 7~9 (アグルのことば)

Pro 30:7 二つのことをあなたにお願いします。／私が死なないうちに、それをかなえてください。

Pro 30:8 むなしいことと偽りのことばを、／私から遠ざけてください。／貧しさも富も私に与えず、／ただ、私に定められた分の食物で、／私を養ってください。

Pro 30:9 私が満腹してあなたを否み、／「【主】とはだれだ」と言わないように。／また、私が貧しくなって盗みをし、／私の神の御名を汚すことのないように。

申命記 23回
「【主】の戦い」
申7:1~26

1. はじめに

(1) 申命記の構造(宗主権契約に基づく4つの説教)

- ①第1の説教:歴史の回顧(1:5~4:43)
- ②第2の説教:契約に基づく義務(4:44~26:19)

(2) 第2の説教:契約に基づく義務

- ①総論:臣下の義務(4:44~5:33)
- ②全的従順の呼びかけ(6~11章)
- ③律法の解説と日常生活への適用(12:1~26:15)
- ④【主】に対する誓約(26:16~19)

(3) モーセは、自分が聞いた律法の内容を民に説明している。

- ①申6章は、「聞け、イスラエルよ」がテーマであった。
- ②申7章は、「【主】の戦い」がテーマである。

2. メッセージのアウトライン

- (1) 7つの異邦の民の聖絶(7:1~5)
- (2) 聖絶の理由(7:6~11)
- (3) 従順に対する祝福(7:12~16)
- (4) 恐れ克服(7:17~26)

3. 結論

- (1) 聖絶は、愛なる神の命令とは思えないが、どう理解すべきか。
- (2) 旧約の神と新約の神は、矛盾するか。

【主】の戦いに勝利する方法について学ぶ。

I. 7つの異邦の民の聖絶(7:1~5)

1. 1~2節

Deu 7:1 あなたが入って行って所有しようとしている地に、あなたの神、【主】があなたを導き入れるとき、主は、あなたよりも数多くまた強い七つの異邦の民、すなわち、ヒッタイト人、ギルガシ人、アモリ人、カナン人、ペリジ人、ヒビ人、およびエブス人をあなたの前から追い払われる。

Deu 7:2 あなたの神、【主】が彼らをあなたに渡し、あなたがこれを討つとき、あなたは彼らを必ず聖絶しなければならない。彼らと何の契約も結んではならない。また、彼らにあわれみを示してはならない。

(1) 7つの異邦の民は、約束の地に住む住民たちの代表として列記されている。

①出3:17では、6つの異邦の民が列記されていた。

Exo 3:17 だからわたしは、あなたがたをエジプトでの苦しみから解放して、カナン人、ヒッタイト人、アモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の地へ、乳と蜜の流れる地へ導き上ると言ったのである』と。』

②出3:17では、ギルガシ人が出ていない。

(2) 【主】が彼らをイスラエルの民に渡し、イスラエルの民がこれを討つ。

①「彼らを必ず聖絶しなければならない」(新改訳2017)

②「彼らを必ず滅ぼし尽くさねばならない」(新共同訳)

③男も、女も、子どもも、滅ぼす。

④聖絶を命じる理由は、カナンの地の住民たちが墮落していたからである。

2. 3～4節

Deu 7:3 また、彼らと姻戚関係に入ってはならない。あなたの娘をその息子に嫁がせたり、その娘をあなたの息子の妻としたりしてはならない。

Deu 7:4 というのは、彼らはあなたの息子を私から引き離し、ほかの神々に仕えさせ、こうして【主】の怒りがあなたがたに向かって燃え上がって、あなたをただちに根絶やしにするからである。

(1) 雑婚が厳しく禁じられた。

①1コリ5:6

1Co 5:6 あなたがたが誇っているのは、良くないことです。わずかなパン種が、こねた粉全体をふくらませることを、あなたがたは知らないのですか。

②雑婚は、イスラエルの民を偶像礼拝に誘い込む。

③そうなれば、イスラエルの民はカナンの地の住民と同じように裁きに会う。

3. 5節

Deu 7:5 むしろ彼らに対して、このようにしなければならない。彼らの祭壇を打ち壊し、石の柱を打ち砕き、彼らのアシェラ像を切り倒し、彼らの彫像を火で焼かなければならない。

(1) 偶像礼拝に関するものはすべて破壊するように、命じられた。

①小さなものが、イスラエルの民の興味をそそる。

②祭壇、石の柱(バアル礼拝における男性のシンボル)、アシェラ像(女神)

③壊した残骸を火で焼く。

II. 聖絶の理由(7:6~11)

1. 6節

Deu 7:6 あなたは、あなたの神、【主】の聖なる民だからである。あなたの神、【主】は地の面のあらゆる民の中からあなたを選んで、ご自分の宝の民とされた。

(1) イスラエルの民は、聖別された民である。

①イスラエルの民は、地上の汚れを清めるための道具として、神に選ばれた。

②イスラエルの民は、神の宝の民である。

③カナン人たちは、400年(神の忍耐の期間)経っても、悔い改めなかった。

④創15:13

Gen 15:13 主はアブラムに言われた。「あなたは、このことをよく知っておきなさい。あなたの子孫は、自分たちのものでない地で寄留者となり、四百年の間、奴隷となって苦しめられる。

2. 7~8節

Deu 7:7 【主】があなたがたを慕い、あなたがたを選ばれたのは、あなたがたがどの民よりも数が多かったからではない。事実あなたがたは、あらゆる民のうちで最も数が少なかった。

Deu 7:8 しかし、【主】があなたがたを愛されたから、またあなたがたの父祖たちに誓った誓いを守られたから、【主】は力強い御手をもってあなたがたを導き出し、奴隷の家から、エジプトの王ファラオの手からあなたを贖い出されたのである。

(1) イスラエルの民が聖別された理由は何か。

①どの民よりも数が多かったからではない。

②事実、あらゆる民のうちで最も数が少なかった。

③イスラエルの民には、誇るべき理由がない。

④【主】はイスラエルの民を愛された(神の愛は、神秘である)。

(2) エジプトを脱出できた理由は何か。

①【主】は、父祖たちに誓った誓いを守られた。

②彼らの子孫は大いなる民となり、カナンの地に住むようになる。

3. 9~11節

Deu 7:9 あなたは、あなたの神、【主】だけが神であることをよく知らなければならない。主は信頼すべき神であり、ご自分を愛し、ご自分の命令を守る者には恵みの契約を千代までも守られる。

Deu 7:10 しかし、ご自分を憎む者には一人ひとりに報いて彼らを滅ぼされる。主はためらわず、ご自分を憎む者一人ひとりに報いられる。

Deu 7:11 あなたは、私が今日あなたに命じる命令、すなわち掟と定めを守り行わなければならない。

(1) 【主】は、イスラエルの民と結んだご自分の契約に忠実である。

- ① 【主】は信頼できる神である。
- ② 【主】は恵みの契約を千代までも（永遠に）守られる。

(2) イスラエルの民の中の個々人は、【主】に従順でなければならない。

①申6:4~5

Deu 6:4 聞け、イスラエルよ。【主】は私たちの神。【主】は唯一である。

Deu 6:5 あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、【主】を愛しなさい。

Ⅲ. 従順に対する祝福(7:12~16)

1. 12~13節

Deu 7:12 もしあなたがたがこれらの定めを聞き、これを守り行うなら、あなたの神、【主】は、あなたの父祖たちに誓われた恵みの契約をあなたのために守り、

Deu 7:13 あなたを愛し、あなたを祝福し、あなたを増やす。主があなたに与えるとあなたの父祖たちに誓われた地で、あなたの胎の実も、穀物、新しいぶどう酒、油などの大地の実りも、またあなたの群れの中の子牛、群れの中の子羊も祝福される。

(1) 【主】が先祖たちと結ばれた契約の2面性

- ① その契約は、決して破棄されることはない（無条件契約）。
- ② 各人が契約の祝福に与るかどうかは、【主】に従順であるかどうかで決まる。

(2) イスラエルの民は、不従順のゆえにその祝福を失う。

① アッシリヤ捕囚とバビロン捕囚が、その例である。

2. 14~15節

Deu 7:14 あなたはあらゆる民の中で最も祝福される。あなたのうちには、子のいない男、子のいない女はいなくなる。あなたの家畜も同様である。

Deu 7:15 【主】はあらゆる病気をあなたから取り除き、あなたが経験したあのエジプトの悪疫を、一つもあなたにはもたらさず、あなたを憎むすべての者にこれを下される。

(1) イスラエルの民に約束された祝福

- ① 多産の祝福（家畜も多産の祝福を受ける）
- ② 病気からの解放

③疫病からの守り (エジプトにあった疫病が襲うことはない)

3. 16節

Deu 7:16 あなたは、あなたの神、【主】があなたに与えるあらゆる民を滅ぼし尽くす。彼らにあわれみをかけてはならない。また彼らの神々に仕えてはならない。それがあなたへの畏となるからだ。

- (1) 再度、聖絶の命令が与えられる。
 - ①あわれみをかけてはならない。
 - ②彼らの神々に仕えてはならない。
 - ③小さな心の緩みが、畏となるからである。

IV. 恐れ克服 (7:17~26)

1. 17~18節

Deu 7:17 あなたが、「これらの異邦の民は私よりも多い。どうして彼らを追い払うことができるだろうか」と考えるときにも、

Deu 7:18 彼らを恐れてはならない。あなたの神、【主】がファラオに、また全エジプトになされたことをよく覚えていなければならない。

- (1) モーセは、民を励ますための奨励のメッセージを語る。
 - ①民は、敵と自分たちを比較し、恐れを感じた。
 - ②イスラエルの民は、かつてカデシュ・バルネアで不信仰に陥った。
- (2) カナン征服戦争を、歴史的な脈の中に正しく位置づける必要がある。
 - ①モーセは、出エジプトの時に為された【主】の奇跡を覚えよと勧告した。

2. 19~21節

Deu 7:19 あなたが自分の目で見たとの大きな試みと、しるしと不思議と、力強い御手と伸ばされた御腕をもって、あなたの神、【主】はあなたを導き出された。あなたの神、【主】は、あなたが恐れているあらゆる民に対しても同じようにされる。

Deu 7:20 また、あなたの神、【主】はスズメバチを彼らのうちに送り、生き残っている者たちや隠れている者たちを、あなたの前から滅ぼされる。

Deu 7:21 彼らの前でおびえてはならない。あなたのうちにおられるあなたの神、【主】は、大いなる恐るべき神だからである。

- (1) 出エジプトの時と、同じ奇跡が起ころうとしている。
 - ①イスラエルの民は、歴史が繰り返されるのを目撃しようとしている。
 - ②「【主】はスズメバチを彼らのうちに送り」
 - *敵は、まるでスズメバチに追われるように逃げ惑う。

*これを文字通りに解釈する人もいる。

*スズメバチが敵を襲う。

(2) 恐るべきは、敵ではなく【主】である。

①【主】は、大いなる恐るべき神である。

3. 22～24節

Deu 7:22 あなたの神、【主】はこれらの異邦の民を徐々にあなたの前から追い払われる。あなたは彼らをすぐに絶ち滅ぼすことはできない。野の獣が増えて、あなたを襲うことのないようにするためである。

Deu 7:23 あなたの神、【主】が彼らをあなたに渡し、彼らを大いにかき乱し、ついに彼らは根絶やしにされる。

Deu 7:24 また、彼らの王たちをあなたの手へ渡される。あなたは彼らの名を天の下から消し去る。だれ一人としてあなたの前に立ちはだかる者はなく、ついに、あなたは彼らを根絶やしにする。

(1) カナン人に対する勝利は、徐々に与えられる。

①【主】が彼らを大いにかき乱す。カナン人がパニック状態に陥る。

②人口が急減すると、畑が荒廃し、野の獣が増えて危険な状態になる。

③勝利は徐々に与えられる。

4. 25～26節

Deu 7:25 あなたがたは彼らの神々の彫像を火で焼かなければならない。それにかぶせた銀や金を欲しがってはならない。また自分のものとしてはならない。あなたが畏に陥らないようにするためである。それは、あなたの神、【主】が忌み嫌われるものである。

Deu 7:26 忌み嫌うべきものをあなたの家に持ち込んで、あなたもそれと同じように聖絶されたものとなってはならない。それをあくまで忌むべきものとし、あくまで忌み嫌わなければならない。それは聖絶の物だからである。

(1) 勝利した後は、彼らの神々の偶像を火で焼く。

①偶像にかぶせた銀や金を欲しがってはならない。

②自分のものとしてはならない。

③【主】は、それを忌み嫌っておられる。

④偶像を所有すると、イスラエルの民が聖絶の対象となる可能性がある。

結論

1. 聖絶は、愛なる神の命令とは思えないが、どう理解すべきか。

(1) カナン人たちは、当時最も邪悪な生活を送っていた。

①申9:4

Deu 9:4 あなたの神、【主】があなたの前から彼らを追い出されたとき、あなたは心の中で、「私が正しいから、【主】が私をこの地に導き入れ、所有させてくださったのだ」と言ってはならない。これらの国々の邪悪さのゆえに、【主】はあなたの前から彼らを追い出そうとしておられるのだ。

(2) 彼らは、神を憎み続けていた。

①申7:10

Deu 7:10 しかし、ご自分を憎む者には一人ひとりに報いて彼らを滅ぼされる。主はためらわず、ご自分を憎む者一人ひとりに報いられる。

②【主】を憎むという罪は、死に値する。

(3) 彼らは、偶像を慕うという悪癖に汚染されていた。

①これは、霊的ガンである。

②民33:55

Num 33:55 もしその地の住民をあなたがたの前から追い払わなければ、あなたがたが残しておく者たちは、あなたがたの目のとげとなり、脇腹の茨となり、彼らはあなたがたが住むその土地であなたがたを苦しめる。

(4) 残された者は、子どもであっても、偶像礼拝を広げる危険性がある。

①子どもの邪悪さを軽視してはならない。

②子どもは邪悪さを持ったままで大人になる。

(5) 責任能力のない年齢で死んだ子どもは、裁かれない可能性が高い。

①聖書には、子どもが永遠の裁きに遭うという記述がない。

②永遠の視点から見ると、永遠の滅びを免れることの方が大きな祝福である。

2. 旧約の神と新約の神は、矛盾するか。

(1) 旧約においても新約においても、神のご性質は変わらない。

①神は、愛であり、義であるお方である。

(2) 聖戦という概念は、今日の私たちには適用されない。

①神は、神の国を設立するために、一つの民ではなく諸国を用いておられる。

②しかし、聖戦から学ぶ適用はある。

③クリスチャンは、罪に対して毅然とした態度を取る必要がある。

申命記 24回

「歴史からの教訓」

申 8 : 1~20 (朗読箇所 : 1~10 節)

1. はじめに

(1) 申命記の構造 (宗主権契約に基づく 4 つの説教)

① 第 1 の説教 : 歴史の回顧 (1 : 5~4 : 43)

② 第 2 の説教 : 契約に基づく義務 (4 : 44~26 : 19)

(2) 第 2 の説教 : 契約に基づく義務

① 総論 : 臣下の義務 (4 : 44~5 : 33)

② 全的従順の呼びかけ (6~11 章)

③ 律法の解説と日常生活への適用 (12 : 1~26 : 15)

④ 【主】に対する誓約 (26 : 16~19)

(3) モーセは、自分が聞いた律法の内容を民に説明している。

① 申 6 章は、「聞け、イスラエルよ」がテーマであった。

② 申 7 章は、「【主】の戦い」がテーマである。

③ 申 8 章は、「歴史からの教訓」がテーマである。

2. メッセージのアウトライン

(1) 荒野の 40 年を覚えよ (8 : 1~6)

(2) 【主】をたたえよ (8 : 7~10)

(3) 【主】を忘れるな (8 : 11~20)

3. 結論

(1) イエスが受けた誘惑

(2) 神のことばによって生きる方法

歴史からの教訓について学ぶ。

I. 荒野の 40 年を覚えよ (8 : 1~6)

1. 1 節

Deu 8:1 私が今日あなたに命じるすべての命令を、あなたがたは守り行わなければならない。そうすれば、あなたがたは生きて数を増やし、【主】があなたがたの父祖たちに誓われた地に入って、それを所有することができる。

(1) 再度、約束の地で祝された生活を送るための秘訣が語られる。

- ①モーセを通して与えられたすべての命令を守り行えば、祝福が与えられる。
 - *長寿と人口の増加
 - *【主】が先祖たちに誓われた約束の地の所有
- ②神の約束は揺るがない。
- ③それを手に入れる秘訣は、従順な生活を送ることである。

2. 2～3節

Deu 8:2 あなたの神、【主】がこの四十年の間、荒野であなたを歩ませられたすべての道を覚えていなければならない。それは、あなたを苦しめて、あなたを試し、あなたがその命令を守るかどうか、あなたの心のうちにあるものを知るためであった。

Deu 8:3 それで主はあなたを苦しめ、飢えさせて、あなたも知らず、あなたの父祖たちも知らなかったマナを食べさせてくださった。それは、人はパンだけで生きるのではなく、人は【主】の御口から出るすべてのことばで生きるということ、あなたに分からせるためであった。

(1) 歴史を回顧することが、従順な生活を送るための秘訣である。

- ①荒野の40年の旅を常に覚えていなければならない。
- ②その期間、【主】はイスラエルの民を試した。
- ③「あなたの心のうちにあるものを知るためであった」（擬人法）
- ⑤【主】は、私たちのうちにあるものをすべてご存じである。
- ⑥ヨハ2：24～25

Joh 2:24 しかし、イエスご自身は、彼らに自分をお任せにならなかった。すべての人を知っていたので、

Joh 2:25 人についてだれの証言も必要とされなかったからである。イエスは、人のうちに何があるかを知っておられたのである。

⑦【主】が民を試したのは、従順か不従順かを歴史の中で証明するためである。

(2) 【主】は彼らを荒野に導かれた。

- ①荒野は信仰を訓練する場であり、そこでは2つの選択肢しかない。
 - *【主】に信頼するか、【主】につぶやくか。
- ②荒野では、自分で食糧を手に入れることができない。
 - *自分の命を神に委ねるか、不平の言葉を口にするか。

(3) 「人はパンだけで生きるのではなく、人は【主】の御口から出るすべてのことばで生きるということ、あなたに分からせるためであった」

- ①神は彼らに、先祖たちも知らなかったマナを食べさせてくださった。
 - *マナは、超自然的なパンである。「これはなんだ」という意味。

- ②神のことばから切り離されたパンは、彼らを養うことができなかった。
- ③しかしマナは、神のことばによって天から降って来た。
- ④究極的には、彼らの命を支えたのは、神のことばであった。

3. 4～6節

Deu 8:4 この四十年の間、あなたの衣服はすり切れず、あなたの足は腫れなかった。

Deu 8:5 あなたは、人がその子を訓練するように、あなたの神、【主】があなたを訓練されることを知らなければならない。

Deu 8:6 あなたの神、【主】の命令を守って主の道に歩み、主を恐れなさい。

- (1) 40年間、イスラエルの民を支えたのは、【主】であった。
 - ①【主】は、食物と水を提供された。
 - ②衣服は超自然的に守られ、すり切れることはなかった。
 - *自分たちで衣服を作ることもあったであろう。
 - *しかし、超自然的な守りがあったので、衣服はすり切れなかった。
 - ③「足は腫れなかった」とは、ビタミン不足から守られたということであろう。
- (2) 荒野の40年間、人がその子を訓練するように、【主】は民を訓練された。
 - ①訓練のゴールは、【主】を恐れ、【主】の命令に従うことである。
 - ②イスラエルの民は、【主】の守りを当然のことと考え、感謝しなかった。
 - ③私たちに関しては、どこに神の守りがあるか思い出し、神に感謝しよう。

II. 【主】をたたえよ(8:7～10)

1. 7～9節

Deu 8:7 あなたの神、【主】があなたを良い地に導き入れようとしておられるからである。そこは、谷間と山に湧き出る水の流れや、泉と深い淵のある地、

Deu 8:8 小麦、大麦、ぶどう、いちじく、ざくろのある地、オリーブ油と蜜のある地である。

Deu 8:9 そこは、あなたが不自由なくパンを食べ、何一つ足りないものがない地であり、その石は鉄で、その山々からは銅を掘り出すことのできる地である。

- (1) 荒野の荒涼たる風景と約束の地の祝福が対比されている。
 - ①そこは良い地である。
 - ②「谷間と山に湧き出る水の流れや、泉と深い淵のある地」
(ILL) ユダの荒野の泉で水遊び
 - ③7つの産物が列挙されている。
 - *小麦、大麦、ぶどう、いちじく、ざくろ、オリーブ油、蜜
 - *食物に関しては、何不自由なく生活ができる。

④地下資源に関しては、鉄と銅がある。

*死海の南（ネゲブ）では、鉄と銅が発見されている。

2. 10 節

Deu 8:10 あなたが食べて満ち足りたとき、主がお与えくださった良い地について、あなたの神、【主】をほめたたえなければならない。

(1) 約束の地では、欠けたものは何もない。

①良い地が与えられたことは、【主】をほめたたえる理由となる。

②この箇所から、ユダヤ教の食前の祈りが派生している。

「神、我らの主、世界の王、地からパンを取り出す貴方の御名をほめたたえます」

「神、我らの主、世界の王、ぶどうの液を作り出す貴方の御名をほめたたえます」

Ⅲ. 【主】を忘れるな（8：11～20）

1. 11～14 節 a

Deu 8:11 気をつけなさい。私が今日あなたに命じる、主の命令と主の定めと主の掟を守らず、あなたの神、【主】を忘れることがないように。

Deu 8:12 あなたが食べて満ち足り、立派な家を建てて住み、

Deu 8:13 あなたの牛や羊の群れが増え、銀や金が増し、あなたの所有物がみな豊かになって、

Deu 8:14a あなたの心が高ぶり、あなたの神、【主】を忘れることがないように。

(1) 繁栄がもたらす危険性がある。

①荒野では、神に依存するしか生きるすがなかつた。

②豊かな生活が与えられると、神への依存度が低くなる。

③それは、神の命令に背く第一歩となる。

④危険を避ける方法は、歴史の回顧、【主】をたたえる、【主】を忘れない。

(2) 繁栄の内容

①食べて満ち足り（食べるものに不安がない生活）

②立派な家を建てて住み（豪邸に住む生活）

③牛や羊の群れが増え（商売が繁盛する生活）

④銀や金が増し、所有物がみな豊かになって（貯蓄が増える生活）

(3) 繁栄の結果

①心が高ぶる。

②【主】を忘れる。

3. 14b～16節

Deu 8:14b 主はあなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出し、

Deu 8:15 燃える蛇やサソリのいるあの大きな恐ろしい荒野、水のない乾ききった地を通らせ、硬い岩からあなたのために水を流れ出させ、

Deu 8:16 あなたの父祖たちが知らなかったマナを、荒野であなたに食べさせてくださった。それは、あなたを苦しめ、あなたを試し、ついにはあなたを幸せにするためだったのである。

(1) 再び歴史の回顧が語られる。

- ①【主】は、イスラエルの民をエジプトの地、奴隷の家から導き出した。
- ②毒蛇やサソリのいる恐ろしい荒野を通らせた。
- ③硬い岩から水を流れ出させた。マナを用意し、それで民を養った。
- ④荒野の旅は、民を苦しめ、試し、【主】への信頼を教えるためであった。

4. 17～18節

Deu 8:17 あなたは心のうちで、「私の力、私の手の力がこの富を築き上げたのだ」と言わないように気をつけなさい。

Deu 8:18 あなたの神、【主】を心に据えなさい。主があなたに富を築き上げる力を与えるのは、あなたの父祖たちに誓った契約を今日のように果たされるためである。

(1) 歴史を回顧する者は、謙遜を学ぶ。

- ①「私の力、私の手の力がこの富を築き上げたのだ」と言わなくなる。
- ②自分の命も含めて、いっさいのものは、神からの贈り物である。
- ③知恵ある者は、成功を通して謙遜を学ぶことができる。

(2) 【主】は、富を築き上げる力を与えてくださる。

- ①先祖たちに誓った契約のゆえに、それが成就する。
- ②そのためには、イスラエルの民は、心に【主】を据える必要がある。

5. 19～20節

Deu 8:19 もしもあなたが、あなたの神、【主】を忘れ、ほかの神々に従って行き、それらに仕え、それらを拝むようなことがあれば、今日、私はあなたがたにこう警告する。あなたがたは必ず滅びる。

Deu 8:20 【主】があなたがたの前から滅ぼされる国々のように、あなたがたも滅びる。あなたがたが自分たちの神、【主】の御声に聞き従わないからである。

(1) 墮落へのサイクル

- ①自分でやったと思いつがる。
- ②【主】に信頼する必要がないので、【主】を忘れる。

- ③ほかの神々を拝むようになる。
- ④最後は、滅びる。

(2) 滅びた国々の例（申 2：26～3：11）

- ①ヘシュボンの王シホン
- ②バシヤンの王オグ

結論

1. イエスが受けた誘惑

(1) マタ 4：3～4

Mat 4:3 すると、試みる者が近づいて来て言った。「あなたが神の子なら、これらの石がパンになるように命じなさい。」

Mat 4:4 イエスは答えられた。「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばで生きる』と書いてある。」

- ①悪魔は、メシアとして登場したイエスを誘惑した。
- ②空腹を満たすために、神の御心ではないパンを食べよという誘惑であった。
- ③イエスは、申 8：3 を引用された。

(2) マナは、神のことばによってイスラエルの民に与えられたパンである。

- ①イスラエルの民は、神の御心に叶ったパンを食べて生きた。
- ②申命記は、契約の書である。イエスは、神との契約に忠実に従われた。
- ③神のことばを食することが、イエスにとっては生きる方法となった。

2. 神のことばによって生きる方法

(1) 幸せな人生を定義しよう。

- ①欲望を満たすことが、幸せになる道だと考えている人は多くいる。
- ②しかし、富や成功では心の渇きを癒やすことはできない。
- ③神から離れた人生は、飽くなき欲望の追求であり、最後は失望に終わる。
- ④幸せな人生とは、神の御心に従った人生である。

(2) 自分には神が必要であることを告白しよう。

- ①今試練の中にいる人は幸いである。
- ②繁栄の中にいる人は、すべてが神からの贈り物であることを認めよう。

(3) 神の臨在を求めて祈ろう。

- ①みことばを読みながら、神の臨在、知恵、導きを求めよう。

(4) イエス・キリストを通して、神との関係を深めよう。

- ①神のことばに従うことは、神を愛することである。

申命記 25回
「傲慢に対する警告（1）」
申9：1～21（朗読箇所：1～12節）

1. はじめに

(1) 第2の説教：契約に基づく義務

- ①総論：臣下の義務（4：44～5：33）
- ②全的従順の呼びかけ（6～11章）
- ③律法の解説と日常生活への適用（12：1～26：15）
- ④【主】に対する誓約（26：16～19）

(3) モーセは、自分が聞いた律法の内容を民に説明している。

- ①申6章は、「聞け、イスラエルよ」がテーマであった。
- ②申7章は、「【主】の戦い」がテーマである。
- ③申8章は、「歴史からの教訓」がテーマである。
- ④申9章は、「傲慢に対する警告」がテーマである。

2. メッセージのアウトライン

- (1) イスラエルの義のゆえではなく（9：1～6）
- (2) 金の子牛事件（9：7～21）
- (3) その他の事件（9：22～24）
- (4) モーセの執りなし（9：25～29）
- (5) 神の赦し（10：1～11）

3. 結論

- (1) 断食の意味と力
- (2) 申命記の中にある福音

傲慢に対する警告について学ぶ。

I. イスラエルの義のゆえではなく（9：1～6）

1. 1～3節

Deu 9:1 聞け、イスラエルよ。あなたは今日、ヨルダン川を渡って、あなたよりも大きくて強い国々を占領しようとしている。その町々は大きく、城壁は天に高くそびえている。

Deu 9:2 あなたがよく知っているアナク人は、大きくて背が高い民である。あなたは「だれがアナク人に立ち向かえるだろうか」と言われるのを聞いたことがある。

Deu 9:3 今日、知りなさい。あなたの神、【主】ご自身が、焼き尽くす火としてあなたの前を進み、彼らを根絶やしにされる。主があなたの前で彼らを征服される。あなたは【主】が約束されたように、彼らをただちに追い払って滅ぼすのだ。

(1) 「聞け、イスラエルよ」

- ①これから重要なことが告げられる。
- ②「今日」とは、「24時間の日」ではなく、「時代」のことである。

(2) 【主】は、カナンの地征服がいかに困難なことを強調される。

- ①その地の住民は、イスラエルの民よりも大きくて強い。
- ②町々は大きく、城壁は天に高くそびえている。
- ③神は、イスラエルの敵がいかに強力であることをよく知っておられた。

(3) 「だれがアナク人に立ち向かえるだろうか」というのは、格言である。

- ①カデシュ・バルネアでの出来事（民 13：26～14：4）
- ②12人のスパイの内の10人が語った不信仰の言葉が、格言になった。

(4) 【主】は、民が同じ失敗を繰り返さないように、励ましの言葉を語られた。

- ①戦う前から、結果は決まっている。
- ②戦うのは【主】ご自身である。
 - *【主】は創造主であり、土地の所有者である。
 - *その方が、契約に基づきイスラエルに土地を与えようとしておられる。
- ③【主】は、焼き尽くす火として民の前を進み、彼らを根絶やしにされる。
 - *シャカイナグローリーが民を導いたのと同じことが起こる。
- ④箴 21：31

Pro 21:31 戦いの日のためには馬が備えられる。／しかし、救いは【主】による。

- ⑤イスラエルの民の責務は、【主】の約束に従って戦うことである。
- ⑥勝利するために必要な力は、【主】から与えられる。

2. 4～6節

Deu 9:4 あなたの神、【主】があなたの前から彼らを追い出されたとき、あなたは心の中で、「私が正しいから、【主】が私をこの地に導き入れ、所有させてくださったのだ」と言うてはならない。これらの国々の邪悪さのゆえに、【主】はあなたの前から彼らを追い出そうとしておられるのだ。

Deu 9:5 あなたが彼らの地を所有することができるのは、あなたが正しいからではなく、またあなたの心が真っ直ぐだからでもない。これらの国々の邪悪さのゆえに、あなたの神、

【主】があなたの前から彼らを追い出そうとしておられるのだ。また**【主】**があなたの父祖、アブラハム、イサク、ヤコブになさった誓いを果たすためである。

Deu 9:6 知りなさい。あなたの神、**【主】**は、あなたの正しさゆえに、この良い地をあなたに与えて所有させてくださるのではない。事実、あなたはうなじを固くする民なのだ。

(1) 勝利したなら、民は傲慢になる危険性がある。

① 私たちも、人生が順調に進んでいるときは、同じ罪を犯す危険性がある。

② 霊的傲慢ほど、やっかいなものはない。

* 「私が正しいから」（新改訳 2017）

* 「我の義がために」（文語訳）

③ この3節（4～6節）で、モーセは3度も警告を発している。

④ **【主】**は、イスラエルの民が正しいから勝利を与えるのではない。

(2) 勝利の3つの理由

① これらの国々の邪悪さのゆえに

② **【主】**が父祖たちになさった誓いを果たすため

③ **【主】**の恵みを示すため

* 事実、イスラエルの民は、「うなじを堅くする民」である。

* カナンの地は、恵みによる贈り物である。

* 「うなじを堅くする民」である証拠として、金の子牛事件を取り上げる。

II. 金の子牛事件（9：7～21）

1. 7～8節

Deu 9:7 あなたは荒野であなたの神、**【主】**をどれほど怒らせたかを忘れずに覚えていなさい。エジプトの地を出た日からこの場所に来るまで、あなたがたは**【主】**に逆らい続けてきた。

Deu 9:8 あなたがたはホレブで**【主】**を怒らせた。それで**【主】**はあなたがたに怒りを燃やし、あなたがたを根絶やしにしようとされたのである。

(1) 金の子牛事件（出 32章）

① 「**〇〇を忘れずに覚えていなさい**」が強調されている。

② この事件は、イスラエルの歴史が反抗の歴史であることを示している。

③ この事件は、イスラエルの民の罪深さと神の恵み深さを示している。

2. 9～10節

Deu 9:9 私が石の板、すなわち、**【主】**があなたがたと結んだ契約の板を受け取るために山に登ったとき、私は四十日四十夜、山にとどまり、パンも食わず水も飲まなかった。

Deu 9:10 【主】は、神の指で書き記された石の板二枚を私に授けてくださった。その上には、あの集まりの日に、【主】が山で火の中からあなたがたに告げられたことばが、すべてそのまま書かれていた。

- (1) モーセは、石の板を受け取るために、シナイ山頂で40日間断食をした。
 - ①その間彼は、完全に神に依存していた。
 - ②しかし民は、麓で宴会を開いていた。
 - *fasting と feasting
 - ③【主】は、神の指で書き記された石の板2枚をモーセに授けた。
 - *そこには、十戒が書かれていた。
 - ④同じ時間、民は麓でその戒めを破っていた。

3. 11～12節

Deu 9:11 こうして四十日四十夜の終わりに、【主】はその二枚の石の板、すなわち契約の板を私に授けてくださった。

Deu 9:12 そして【主】は私に言われた。「さあ、急いでここから下れ。あなたがエジプトから導き出したあなたの民は墮落してしまった。彼らはわたしが命じた道から早くも外れて、自分たちのために鑄物の像を造った。」

- (1) 四十日四十夜の終わりに、【主】は、石の板2枚をモーセに授けた。
 - ①書かれた内容は、民が直接【主】から聞いた十戒である。
 - ②しかし民は、麓で第1戒と第2戒を破っていた。
 - *「あなたには、わたし以外に、ほかの神があってはならない」
 - *「あなたは自分のために偶像を造ってはならない」
 - ③彼らは、金の子牛を礼拝していた。
 - ④民は、驚くほどのスピードで墮落し、【主】から離れて行った。

4. 13～14節

Deu 9:13 さらに【主】は私にこう言われた。「わたしはこの民を見てきたが、実にうなじを固くする民である。」

Deu 9:14 わたしのするがままにさせよ。わたしは彼らを根絶やしにし、彼らの名を天の下から消し去る。しかし、わたしはあなたを、彼らよりも強くまた数の多い国民にする。」

- (1) 【主】の評価と提案
 - ①「わたしはこの民を見てきたが、実にうなじを固くする民である」
 - ②「わたしは彼らを根絶やしにし、彼らの名を天の下から消し去る」
 - ③「しかし、わたしはあなたを、彼らよりも強くまた数の多い国民にする」

5. 15～17節

Deu 9:15 私は向きを変えて山から下りた。山は火で燃えていた。二枚の契約の板は私の両手にあった。

Deu 9:16 私が見ると、見よ、あなたがたは自分たちの神、【主】の前に罪ある者となって、自分たちのために鑄物の子牛を造り、【主】があなたがたに命じられた道から早くも外れてしまっていた。

Deu 9:17 それで私はその二枚の板をつかみ、両手でそれを投げつけ、あなたがたの目の前でそれを打ち砕いた。

(1) モーセがすぐに行ったこと

①向きを変えて山から下りた。

*民は気まぐれで罪深い。

*民は、【主】が命じた道から早くも外れてしまった。

*山は火で燃えていた。

*シャカイナグローリーがシナイ山を覆っていた。

②モーセは、2枚の板を投げつけ、民の目の前でそれを打ち砕いた。

*民はシナイ契約の条項を破り、この契約に違反した。

*神には、この契約を破棄する権利がある。

6. 18～19節

Deu 9:18 それから私は、前のように四十日四十夜、【主】の前にひれ伏して、パンも食わず水も飲まなかった。あなたがたが罪ある者となって、【主】の目に悪であることを行い、御怒りを引き起こした、そのすべての罪のゆえであった。

Deu 9:19 こうしたのは、【主】が激しく怒ってあなたがたを根絶やしにしようとされたその怒りと憤りが、私には怖かったからであった。しかし、そのときも【主】は私の願いを聞き入れてくださった。

(1) 次にモーセが行ったこと

①山に上り、に四十日四十夜、【主】の前にひれ伏して断食した。

*これは、断食祈祷である（申9：26～29に祈りの内容が出て来る）。

②断食は、悔い改めの表現である。

③モーセは、イスラエルの民の罪と一体化したのである。

④モーセは、【主】の怒りと憤りを恐れた。

⑤【主】は、モーセの願いを聞き入れてくださった。

7. 20～21節

Deu 9:20 【主】はアロンに向かって激しく怒り、彼を滅ぼそうとされたが、そのとき私はアロンのためにもとりなしをした。

Deu 9:21 私はあなたがたの罪、あなたがたが造ったその子牛を取って火で焼き、打ち砕き、ちりになるまでよくすりつぶした。そして私はそのちりを、山から流れ下る川に投げ捨てた。

- (1) モーセがアロンのために祈ったというのは、ここだけに出て来る情報である。
 - ①モーセは、アロンの命も救った。
- (2) モーセは、金の子牛を修復不可能なほどに破壊した。
 - ①これは、2度目の40日間の断食の後の行為である。
 - ②「あなたがたの罪」＝「あなたがたが作った子牛」（これは皮肉である）
 - ③破壊した後のちりを川に投げ捨てた。
 - ④偶像が破壊されたことは、偶像礼拝者も破壊されることを示している。

結論

1. 断食の意味と力

- (1) モーセは山に登り、2度目の断食を行った。
 - ①40日40夜の断食
 - ②旧約聖書では、悔い改めの時期に断食するのは、一般的な習慣であった。
 - ③ここでの断食は、モーセが民と一体化したことを示している。
 - ④また、民が犯した罪の恐ろしさとも一体化していることを示している。
- (2) 旧約聖書における断食の代表例
 - ①2サム12:16

2Sa 12:16 ダビデはその子のために神に願い求めた。ダビデは断食をして引きこもり、一晚中、地に伏していた。

*ダビデは、バテ・シェバが産んだ子どものために祈った。

②1列21:27

1Ki 21:27 アハブはこれらのことばを聞くとすぐ、自分の外套を裂き、身に粗布をまとって断食をした。彼は粗布をまとって伏し、打ちひしがれて歩いた。

*アハブは、エリヤが語る滅びの預言を聞いた。

③ネへ1:4

Neh 1:4 このことばを聞いたとき、私は座り込んで泣き、数日の間嘆き悲しみ、断食して天の神の前に祈った。

*ネヘミヤは、帰還民とエルサレムの窮状を知った。

- (3) クリスチャンの断食
 - ①神はクリスチャンに、断食せよとは命じておられない。
 - ②断食は、熱心な姿を神に見せて、神を動かそうとするものではない。
 - ③つまり、断食を誇ってはならないということである。

- ④断食とは、神に関心を向けるために、食物を断つことである。
- ⑤強調点は、食物にではなく、神との関係にある。
- ⑥この世への執着心を捨てると、神との関係が深まる。
- ⑦断食によって、新しい霊的視点が開かれて来る。
- ⑧断食を実行する際に必要なのは、謙遜とそれを喜ぶ姿勢である。
- ⑨マタ 6 : 17～18

Mat 6:17 断食するときは頭に油を塗り、顔を洗いなさい。

Mat 6:18 それは、断食していることが、人にではなく、隠れたところにおられるあなたの父に見えるようにするためです。そうすれば、隠れたところで見えておられるあなたの父が報いてくださいます。

2. 申命記の中にある福音

- (1) イスラエルの民は、自らの義のゆえに勝利するのではない。
 - ①カナン人に対する勝利は、神の恵みによって与えられる。
- (2) 同じ霊的真理が、私たちにも適用される。
 - ①私たちは、自らの義のゆえに救われたのではない。
 - ②キリストの義が私たちに適用されたので、救われたのである。
 - ③救われる方法は、キリストに対する信頼である。
 - ④私たちは、恵みと信仰によって救われた。
 - ⑤神は、私たちのことをすべてご存じである。
 - ⑥自分の義を探し、それを誇る人は、必ず失望させられる。
 - ⑦エペ 2 : 8～9

Eph 2:8 この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。

Eph 2:9 行いによるものではありません。だれも誇ることのないためです。

申命記 26回

「傲慢に対する警告(2)」

申9:22~10:11 (朗読箇所 9:22~29)

1. はじめに

(1) 第2の説教：契約に基づく義務

- ①総論：臣下の義務(4:44~5:33)
- ②全的従順の呼びかけ(6~11章)
- ③律法の解説と日常生活への適用(12:1~26:15)
- ④【主】に対する誓約(26:16~19)

(3) モーセは、自分が聞いた律法の内容を民に説明している。

- ①申6章のテーマは、「聞け、イスラエルよ」。
- ②申7章のテーマは、「【主】の戦い」。
- ③申8章のテーマは、「歴史からの教訓」。
- ④申9章のテーマは、「傲慢に対する警告」。

2. メッセージのアウトライン

- (1) イスラエルの義のゆえではなく(9:1~6)
- (2) 金の子牛事件(9:7~21)
- (3) その他の事件(9:22~24)
- (4) モーセの執りなし(9:25~29)
- (5) 神の赦し(10:1~11)

3. 結論

- (1) クリスマンへの教訓
- (2) クリスマンの嗣業

傲慢に対する警告について学ぶ。

Ⅲ. その他の事件(9:22~24)

1. 22節

Deu 9:22 また、あなたがたは、タブエラでもマサでもキプロテ・ハ・タアワでも【主】を怒らせた。

- (1) モーセは、金の子牛事件以外の事例を挙げる。
 - ①タブエラ、マサ、キプロテ・ハ・タアワ、カデシュ・バルネアが挙げられる。
 - ②これらの事例は、時間順ではなく、小から大の順に並べられている。

(2) タブエラ（民11：1～3）

①シナイ山を旅立ち、3日の道のりを進んだ。

Num 11:1 さて、民は【主】に対して、繰り返し激しく不平を言った。【主】はこれを聞いて怒りを燃やし、【主】の火が彼らに向かって燃え上がり、宿営の端をなめ尽くした。

Num 11:2 すると民はモーセに向かってわめき叫んだ。それで、モーセが【主】に祈ると、その火は消えた。

Num 11:3 その場所の名はタブエラと呼ばれた。【主】の火が、彼らに向かって燃え上がったからである。

②タブエラとは、「燃える」という意味である。

(3) マサ（出17：1～7）

①民は、水がないと不平を言った。

②マサ（試し）、メリバ（争い）

(4) キブロテ・ハ・タアワ（民11：31～34）

①民は、マナについて不平を言った。

②うずらが与えられたが、その肉を食べている間に、疫病で打たれた。

③キブロテ・ハ・タアワとは、「欲望の墓」という意味である。

2. 23～24 節

Deu 9:23 【主】は、あなたがたをカデシュ・バルネアから遣わしたとき、「上って行って、わたしがあなたがたに与えている地を占領せよ」と言われたが、あなたがたは自分たちの神、【主】の命令に逆らい、主を信頼せず、その御声に聞き従わなかった。

Deu 9:24 私があなたがたを知った日から、あなたがたは【主】に逆らい続けてきた。

(1) カデシュ・バルネア（民13：31～33）

①民は、約束の地に入ることができるという【主】のことばを信じなかった。

(2) イスラエルの民は、歴史の転換点において常に【主】に反抗してきた。

①モーセはこのことを民に強く印象付けようとした。

②「私があなたがたを知った日から、あなたがたは【主】に逆らい続けてきた」

③金の子牛事件で民が減びなかったのは、モーセの祈りのゆえである。

④この箇所のモーセの祈りは、旧約聖書の代表的な祈りのひとつである。

IV. モーセの執りなし（9：25～29）

1. 25 節

Deu 9:25 それで私は、その四十日四十夜、【主】の前にひれ伏していた。それは、【主】があなたがたを根絶やしにすると言われたからである。

- (1) 「その四十日四十夜、【主】の前にひれ伏していた」
 - ①40日間の断食は、モーセの誠実さと、現状認識の正しさを証明している。
 - ②「それは、【主】があなたがたを根絶やしにすると言われたからである」

2. 26～27節

Deu 9:26 私は【主】に祈って言った。「【神】、主よ、あなたのゆずりの民を滅ぼさないでください。彼らは、あなたが偉大な力をもって贖い出し、力強い御手をもってエジプトから導き出された民です。

Deu 9:27 あなたのしもべ、アブラハム、イサク、ヤコブを思い起こしてください。そして、この民の頑なさや悪と罪に御顔を向けないでください。

- (1) モーセの関心事は、神の栄光である。
 - ①【主】はイスラエルの民をご自身の「ゆずりの民」(嗣業の民)とされた。
 - ②彼らは、【主】が偉大な力をもってエジプトから導き出した民である。
 - *この表現が申命記の中に約20回出て来る。
 - ③「ゆずりの民」という確信が、イスラエルの自己認識の中心にあった。
 - *詩28:9、33:12

Psa 28:9 どうか御民を救ってください。／あなたのゆずりの民を祝福してください。／どうか彼らの羊飼いとなって／いつまでも彼らを携え導いてください。

Psa 33:12 幸いなことよ／【主】を自らの神とする国は。／神がご自分のゆずりとして選ばれた民は。

- (2) モーセは、アブラハム契約に訴えている。
 - ①「アブラハム、イサク、ヤコブを思い起こしてください」
 - ②イスラエルの民が滅びるなら、神の約束が成就しないことになる。
 - ③それでは神の栄光に傷が付くことになる。

- (4) さらに彼は、神の恵みに訴えている。
 - ①「この民の頑なさや悪と罪に御顔を向けないでください」
 - (ILL) ソドムとゴモラのために祈ったアブラハム

3. 28～29節

Deu 9:28 そうでないと、あなたがそこから私たちを導き出されたあの国では、こう言うでしょう。『【主】は、約束した地に彼らを導き入れることができなかつたので、また彼らを憎んだので、彼らを荒野で死なせようとして連れ出したのだ。』

Deu 9:29 しかし彼らは、あなたのゆずりの民です。あなたが、その大いなる力と伸ばされた御腕をもって導き出された民です。」

(1) イスラエルの民が減びたなら、エジプト人たちはこう言うだろう。

①【主】は、約束した地に彼らを導き入れることができなかった。

*これは、【主】の御力に対する冒瀆である。

②【主】は、彼らを憎むようになった。

*これは、【主】のご性質に対する冒瀆である。

V. 神の赦し(10:1~11)

1. 1~5節

Deu 10:1 そのとき、【主】は私に言われた。「前のような石の板を二枚切って作り、山に登り、わたしのもとに來い。また木の箱を一つ作れ。

Deu 10:2 その板の上に、わたしは、あなたが砕いたあの最初の板にあったことばを書き記す。あなたはそれを箱の中に納めよ。」

Deu 10:3 そこで私はアカシヤ材の箱を一つ作り、前のような石の板を二枚切り取り、その二枚の板を手にして山に登って行った。

Deu 10:4 【主】はそれらの板に、あの集まりの日に、山で火の中からあなたがたに告げた十のことばを、前と同じ文で書き記された。【主】はそれを私に与えられた。

Deu 10:5 私は向き直って山を下り、それらの板を、私が作った箱の中に納めた。【主】が私に命じられたとおりに、それらはそこにある。

(1) 【主】はモーセの祈りを聞き入れ、新しい命令をお与えになった。

①「前のような石の板を二枚切って作り、山に登り、わたしのもとに來い」

*最初のシナイ契約は破棄され、同じ契約が再度締結される。

*石の板2枚は、契約書の正と副である。

(2) 「また木の箱を一つ作れ」

①契約の箱の作り方は、金の子牛事件の前に啓示されていた。

②実際に契約の箱を作るのは、幕屋建設の時である。

*モーセが契約の箱を作ったかのように書かれている。

③石の板2枚には、最初の板にあったことばが【主】によって書き記された。

*それは十戒である。

④モーセはそれを箱の中に納めた。

*これを行うのは、幕屋奉獻の時である。

(3) 強調点は、【主】が命じられた通りに行ったということである。

①契約の箱の中に石の板2枚が入っているのは、そういう経緯からである。

2. 6～9節

Deu 10:6 ——イスラエルの子らは、ベエロテ・ベネ・ヤアカンからモセラに旅立った。アロンはそこで死に、そこに葬られた。それで彼の子エルアザルが彼に代わって祭司の職に任じられた。

Deu 10:7 そこから彼らは旅立ってグデゴダに行き、またグデゴダから、川の流れる地ヨテバタに進んだ。

Deu 10:8 そのとき、【主】はレビ部族を選び分けて、【主】の契約の箱を運び、【主】の前に立って仕え、また御名によって祝福するようにされた。今日までそうである。

Deu 10:9 それゆえ、レビには兄弟たちと同じようには相続地が割り当てられなかった。あなたの神、【主】が彼について言われたように、【主】が彼へのゆずりなのである——

- (1) この箇所は、恐らく編集者による挿入句であろう。
- (2) アロンは、モセラで死に、そこに葬られた。

Num 33:38 祭司アロンは【主】の命によりホル山に登り、そこで死んだ。それは、イスラエルの子らがエジプトの地を出てから四十年目の第五の月の一日であった。

- ①モセラは、ホル山があった地域の名称であろう。
- ②アロンは、モーセの執りなしの祈りによって、死を免れていた。

- (3) アロンの三男エルアザルが大祭司に任じられた。

- ①神の恵みによって、大祭司職も継続することになった。

- (4) 12部族の中からレビ族が聖別され、聖なる任務に就かされた。

- ①「そのとき」とは、アロンが死んだ時ではなく、契約が更新された時である。
- ②レビ族は、12部族の中の「ゆずりの民」となった。
- ③彼らには土地が与えられなかった。
- ④【主】がレビ族への「ゆずり」となってくださった。

3. 10～11節

Deu 10:10 私は初めのときのように、四十日四十夜、山にとどまった。【主】はこのときもまた、私の願いを聞き入れ、【主】はあなたを滅ぼすことを思いとどまられた。

Deu 10:11 そして【主】は私に、「民の先頭に立って進め。そうすれば彼らは、わたしが彼らに与えると父祖たちに誓った地に入り、その地を占領することができる」と言われた。

- (1) この部分は、これまで語って来たことの要約である。
 - ①モーセは、2度目にも40日40夜、山頂で断食祈禱を行った。
 - ②【主】はモーセの願いを聞き入れ、民を滅ぼすことを思いとどまられた。
 - ③【主】は、モーセが引き続きリーダーとして民を導くように命じられた。

- ④【主】は、民は約束の地を占領することができると言われた。
- ⑤以上のことから、【主】がイスラエルの民と和解されたことが分かる。

結論

1. クリスマンへの教訓

(1) 1コリ 10:11~13

1Co 10:11 これらのことが彼らに起こったのは、戒めのためであり、それが書かれたのは、世の終わりに臨んでいる私たちへの教訓とするためです。

1Co 10:12 ですから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけなさい。

1Co 10:13 あなたがたが経験した試練はみな、人の知らないものではありません。神は真実な方です。あなたがたを耐えられない試練にあわせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えていてくださいます。

- (2) 私たちは、世の終わりに臨んでいる。
- (3) 悔い改めのために残されている時間は少なくなっている。
- (4) コリントの信者たちは、キリスト者の自由をはき違えていた。
 - ①彼らは、自分たちは立っていると思っていたが、倒れる寸前にあった。
- (5) 試練の時こそ、真実なお方である神を信頼すべきである。

2. クリスマンの嗣業

(1) ピリ 3:7~9

Php 3:7 しかし私は、自分にとって得であったこのようなすべてのものを、キリストのゆえに損と思うようになりました。

Php 3:8 それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、私はすべてを損と思っています。私はキリストのゆえにすべてを失いましたが、それらはちりあくただと考えています。それは、私がキリストを得て、

Php 3:9 キリストにある者と認められるようになるためです。私は律法による自分の義ではなく、キリストを信じることによる義、すなわち、信仰に基づいて神から与えられる義を持つのです。

(2) ロマ 8:17

Rom 8:17 子どもであるなら、相続人もあります。私たちはキリストと、栄光とともに受けるために苦難をともにしているのですから、神の相続人であり、キリストとともに共同相続人なのです。

(3) 1ペテ 1:4

1Pe 1:4 また、朽ちることも、汚れることも、消えて行くこともない資産を受け継ぐようにしていただきました。これらは、あなたがたのために天に蓄えられています。

申命記 27回

「全的献身の勧め(1)」

申 10 : 12~11 : 7 (朗読箇所 10 : 12~22)

1. はじめに

(1) 第2の説教：契約に基づく義務

- ①総論：臣下の義務(4 : 44~5 : 33)
- ②全的従順の呼びかけ(6~11章)
- ③律法の解説と日常生活への適用(12 : 1~26 : 15)
- ④【主】に対する誓約(26 : 16~19)

(3) モーセは、自分が聞いた律法の内容を民に説明している。

- ①申6章のテーマは、「聞け、イスラエルよ」。
- ②申7章のテーマは、「【主】の戦い」。
- ③申8章のテーマは、「歴史からの教訓」。
- ④申9章のテーマは、「傲慢に対する警告」。
- ⑤申10~11章のテーマは、「全的献身の勧め」。

2. メッセージのアウトライン

- (1) イスラエルの選びのゆえに(10 : 12~22)
- (2) 偉大な御業のゆえに(11 : 1~7)
- (3) 祝福を得るために(11 : 8~25)
- (4) 祝福とのろい(11 : 26~32)

3. 結論

- (1) 肉の割礼と心の割礼
- (2) 選びと応答

全的献身の勧め(1)について学ぶ。

I. イスラエルの選びのゆえに(10 : 12~22)

1. 12~13節

Deu 10:12 イスラエルよ。今、あなたの神、【主】が、あなたに求めておられることは何か。それは、ただあなたの神、【主】を恐れ、主のすべての道に歩み、主を愛し、心を尽くし、いのちを尽くしてあなたの神、【主】に仕え、

Deu 10:13 あなたの幸せのために私が今日あなたに命じる、【主】の命令と掟を守ることである。

- (1) 全的献身の勧めの要約が冒頭に登場する。
 - ① 選びの民であるがゆえに、全的献身が要求される。

- (2) 【主】がイスラエルの民に求めたこと
 - ① 【主】を恐れること
 - * 神を神と認める。
 - ② 主のすべての道に歩むこと
 - * 神に喜ばれるような生き方をする。
 - ③ 主を愛すること
 - * 神の命令を守る。
 - ④ 心を尽くし、いのちを尽くして、【主】に仕えること
 - * 全存在をかけて【主】に仕える。
 - ⑤ モーセが命じる【主】の命令と掟を守ること
 - * 【主】への愛を実践する。

- (3) これらの要求は、イスラエルの幸せのために【主】が命じるものである。
 - ① イスラエルが祝福を受ける秘訣は、【主】への全的献身しかない。

2. 14～15 節

Deu 10:14 見よ。天と、もろもろの天の天、地とそこにあるすべてのものは、あなたの神、【主】のものである。

Deu 10:15 【主】はただあなたの父祖たちを慕って、彼らを愛された。そのため彼らの後の子孫であるあなたがたを、あらゆる民の中から選ばれた。今日のとおりである。

- (1) 【主】は、天と地の創造主であり、被造世界の一部ではない。
 - ① 「天と、もろもろの天の天」とは、私たちが天と呼ぶものの総体である。
 - ② 【主】は、天と地、またそこにあるすべてのものを所有しておられる。

- (2) 【主】は、父祖たち(アブラハム、イサク、ヤコブ)を特に愛された。
 - ① その子孫であるイスラエルをあらゆる民の中から選ばれた。
 - ② イスラエルの民は、【主】を証しするために選ばれた。
 - ③ それがイスラエルの民の存在目的である。
 - ④ 今イスラエルは、【主】による選びの上に立っている。
 - ⑤ これは、イスラエルにとっては重要な自己認識である。

- (3) イスラエルの民の現状
 - ① メシアを拒否して以降、教会が神の計画を実行する器となっている。

- ②教会が携挙された後は、再びイスラエルが神の計画を実行する器となる。
- ③神の召命は変わらない。

3. 16～18節

Deu 10:16 あなたがたは心の包皮に割礼を施しなさい。もう、うなじを固くする者であってはならない。

Deu 10:17 あなたがたの神、【主】は神の神、主の主、偉大で力があり、恐ろしい神。えこひいきをせず、賄賂を取らず、

Deu 10:18 みなしごや、やもめのためにさばきを行い、寄留者を愛して、これに食物と衣服を与えられる。

- (1) 神の選びに対する正しい応答は、心の割礼である。
 - ①心が無割礼であるとは、自我が砕かれなくて、【主】に反抗的な状態を言う。
 - ②心が無割礼の者は、「うなじを固くする者」である。
 - * 「うなじのこわい者」(新改訳第3版)
 - * 「かたくな」(新共同訳)
 - * 「強情」(口語訳)
 - * 「項(うなじ)を強(こわ)くする」(文語訳)
 - ③心に割礼を受けていない人は、生まれながらに神に対して反抗的である。
- (2) イスラエルの神、【主】のご性質
 - ①神の神、主の主、偉大で力があり、恐ろしい神
 - ②えこひいきをせず、賄賂を取らず
 - * わいろで【主】を喜ばせることはできない。
 - * 内面の変化だけが、【主】に喜ばれる。
 - ③みなしごや、やもめのためにさばきを行い
 - ④寄留者を愛して、これに食物と衣服を与えられる。
 - * 選民イスラエルは、義なる行いをするように期待されている。

4. 19～22節

Deu 10:19 あなたがたは寄留者を愛しなさい。あなたがたもエジプトの地で寄留の民だったからである。

Deu 10:20 あなたの神、【主】を恐れ、主に仕えなさい。主にすがり、御名によって誓いなさい。

Deu 10:21 この方こそあなたの賛美、この方こそあなたの神であって、あなたが自分の目で見たこれらの大いなる恐るべきことを、あなたのために行われた方である。

Deu 10:22 あなたの父祖たちは七十人でエジプトへ下ったが、今や、あなたの神、【主】はあなたを空の星のように多くされた。

(1) 寄留者を愛する理由

- ①イスラエルの民は、エジプトで寄留の民であった。
- ②【主】は、大いなる恐るべきことを、イスラエルの民のために行われた。
- ③イスラエルの民は、それを目撃した。

(2) 【主】への応答

- ①【主】を恐れ
- ②主に仕えなさい。
- ③主にすがり
- ④御名によって誓いなさい。
- ⑤この方こそあなたの賛美、
- ⑥この方こそあなたの神。

(3) アブラハム契約の部分的成就

- ①70人でエジプトへ下ったが、【主】はあなたを空の星のように多くされた。

II. 偉大な御業のゆえに (11:1~7)

1. 1節

Deu 11:1 あなたはあなたの神、【主】を愛し、主への務めを果たし、主の掟と定めと命令をいつも守りなさい。

(1) 【主】への愛と【主】への従順は、不可分の関係にある。

- ①【主】を愛するとは、最も親密な関係を持つ相手として【主】を選ぶこと。
- ②その愛は、【主】への従順によって表現される。

2. 2節

Deu 11:2 今日、心得なさい。あなたがたの子どもたちが、あなたがたの神、【主】の訓練を、その偉大さを、その力強い御手と伸ばされた御腕、そのしるしとみわざを経験し目撃したわけではないことを。

(1) 親の子どもたちへの責務

- ①親は、【主】の訓練を受け、【主】の偉大さを体験した。
- ②エジプトでの訓練と荒野での訓練があった。
- ③しかし、子どもたちはそれを経験していない。
- ④子どもたちに歴史を教えるのは、親の使命である。

3. 3~4節

Deu 11:3 主がエジプトで、エジプトの王ファラオとその全土に対してなされたこと、

Deu 11:4 またエジプトの軍勢とその馬と戦車に対してなされたこと、すなわち、彼らがあなたがたの後を追って来たとき、葦の海の水を彼らの上にあふれさせ、【主】がこれを滅ぼして、今日に至っていること、

(1) エジプトでの訓練

- ①エジプトに10の災害をもたらした。
- ②ファラオの軍勢は、溺死した。
- ③その結果、エジプトから解放され、約束の地に入ろうとしている。

4. 5~6節

Deu 11:5 またあなたがたがこの場所に来るまでに、荒野であなたがたに対してなされたこと、

Deu 11:6 またルベンの子エリアブの子である、ダタンとアビラムに対してなされたこと、すなわち、イスラエル全体のただ中で地がその口を開け、彼らとその家族、その天幕、また彼らにつく生けるものすべてを呑み込んだことなど、

(1) 荒野での訓練

- ①荒野の旅では、【主】の摂理的守りが与えられた。
- ②【主】は、反抗する者を厳しく罰せられた。
- ③「ダタンとアビラムに対してなされたこと」(民16章)

Num 16:1 レビの子であるケハテの子イツハルの子コラは、ルベンの子孫であるエリアブの子ダタンとアビラム、およびペレテの子オンと共謀して、

Num 16:2 モーセに立ち向かった。イスラエルの子らで、会衆の上に立つ族長たち、会合から召し出された名のある者たち二百五十人も、彼らと一緒にあった。

- ④地面が割れ、彼らは家族とともに呑み込まれた。

5. 7節

Deu 11:7 これら【主】がなされた偉大なみわざのすべてを自分の目を見たのは、あなたがたである。

(1) 出エジプトを経験した世代は、【主】の偉大なみわざを目撃した。

- ①しかし、子どもたちは見ていない。
- ②それゆえ、子どもたちに歴史を教える必要がある。

結論

1. 肉の割礼と心の割礼

- (1) 割礼は、アブラハム契約のしるしである。

- ①民は、生まれて8日目に割礼を受けるように命じられた(創17:12)。
- ②しかし、割礼には外的手術以上の意味がある。
- ③割礼は、清めと聖別の象徴である。
- ④肉の割礼は、心の割礼の象徴であって、その逆ではない。
- ⑤心が砕かれているなら、神を愛し、隣人を愛するようになる。

(2) 新約聖書の中の割礼

① ロマ 2:28~29

Rom 2:28 外見上のユダヤ人がユダヤ人ではなく、また、外見上のからだの割礼が割礼ではないからです。

Rom 2:29 かえって人目に隠れたユダヤ人がユダヤ人であり、文字ではなく、御霊による心の割礼こそ割礼だからです。その人への称賛は人からではなく、神から来ます。

- *外見上のからだの割礼は、心の割礼の象徴である。
- *心の割礼がないなら、からだの割礼にはなんの意味もない。
- *心の割礼を受けたユダヤ人が、真のユダヤ人である。

② コロ 2:11

Col 2:11 キリストにあって、あなたがたは人の手によらない割礼を受けました。肉のからだを脱ぎ捨てて、キリストの割礼を受けたのです。

- *異邦人信者は、心の割礼を受けた。
- *それゆえ、人の手によるからだの割礼を受ける必要はない。
- *心の割礼は、キリストによって受けた。

(3) 洗礼の意味

- ①洗礼は、救いの条件ではない。
- ②洗礼は、新生したことの象徴である。
- ③新生していなければ、洗礼にはなんの意味もない。

2. 選びと応答

(1) ロマ 5:8

Rom 5:8 しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます。

(2) 1ヨハ 4:10~11

1Jn 4:10 私たちが神を愛したのではなく、／神が私たちを愛し、／私たちの罪のために、／宥めのささげ物としての御子を遣わされました。／ここに愛があるのです。

1Jn 4:11 愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた、互いに愛し合うべきです。

申命記 28回

「全的献身の勧め(2)」

申 11 : 8~32 (朗読箇所 11 : 8~25)

1. はじめに

(1) 第2の説教：契約に基づく義務

- ①総論：臣下の義務(4 : 44~5 : 33)
- ②全的従順の呼びかけ(6~11章)
- ③律法の解説と日常生活への適用(12 : 1~26 : 15)
- ④【主】に対する誓約(26 : 16~19)

(3) モーセは、自分が聞いた律法の内容を民に説明している。

- ①申6章のテーマは、「聞け、イスラエルよ」。
- ②申7章のテーマは、「【主】の戦い」。
- ③申8章のテーマは、「歴史からの教訓」。
- ④申9章のテーマは、「傲慢に対する警告」。
- ⑤申10~11章のテーマは、「全的献身の勧め」。

2. メッセージのアウトライン

- (1) イスラエルの選びのゆえに(10 : 12~22)
- (2) 偉大な御業のゆえに(11 : 1~7)
- (3) 祝福を得るために(11 : 8~25)
- (4) 祝福とのろい(11 : 26~32)

3. 結論：クリスチャンへの適用

- (1) 2テモ3 : 1~5
- (2) 2テモ3 : 14~17
- (3) コロ3 : 16

全的献身の勧め(2) について学ぶ。

Ⅲ. 祝福を得るために(11 : 8~25)

1. 8~9節

Deu 11:8 あなたがたは、私が今日あなたに命じるすべての命令を守りなさい。それは、あなたがたが強くなり、あなたがたが渡って行って所有しようとしている地を所有するため、

Deu 11:9 また、【主】があなたがたの父祖たちに誓って、彼らとその子孫に与えると言われたその土地、すなわち、乳と蜜の流れる地で、あなたの日々が長く続くようにするためである。

(1) モーセは、歴史（偉大な御業）を回顧した後、重要な結論を導き出す。

- ①神は、荒野での偉大な御業を通して、民に道徳的訓練を施された。
- ②年長者は、体験的に以下のことを理解したはずである。

*申 11 : 7

Deu 11:7 これら【主】がなさった偉大なみわざのすべてを自分の目で見たのは、あなたがたである。

*道徳的・倫理的に正しいことを行えば、【主】の恵みと祝福を体験する。

*間違ったことを行えば、【主】の裁きを身に受ける。

- ③「乳と蜜の流れる地」で繁栄するための条件は、【主】への従順である。

(2) 年長者が学んだ重要な教訓とは何か。

- ①自分よりも強い敵に勝ち、その地で繁栄するのは、軍事力の問題ではない。
- ②それは、いわば道徳力・倫理力の問題である。
- ③神の約束を手に入れるための方法は、【主】への従順である。
- ④歴史上、道徳力・倫理力を無視したために滅びた国は多くある。
- ⑤人生には、人間の努力だけではどうにもならないことが多くある。
- ⑥試練の時こそ、道徳力・倫理力に依り頼むべきである。

2. 10～12 節

Deu 11:10 なぜなら、あなたが入って行って所有しようとしている地は、あなたがたが出て来たエジプトの地のようにではないからである。エジプトであなたは、野菜畑でするように、自分で種を蒔き、自分の力で水をやっていた。

Deu 11:11 しかし、あなたがたが渡って行って所有しようとしている地は、山と谷の地であり、天からの雨で潤っている。

Deu 11:12 そこは、あなたの神、【主】が求められる地で、年の初めから年の終わりまで、あなたの神、【主】が絶えずその上に目をとどめておられる地である。

(1) エジプトの農業と約束の地の農業の対比

- ①エジプトの農業は、灌漑農業である。

*ナイル川が氾濫すると、水を貯水槽に貯め、人工的に造った水路に流す。

*「自分の力で水をやっていた」

*「自分の力で水をやる必要があった」（新共同訳）

*足踏み式水車であろう。

*奴隷であったイスラエルの民は、その労働の過酷さをよく知っていた。

*灌漑農業は、人間の知恵と力に依存した農業である。

②約束の地の農業は、神に委ねる農業である。

*「山と谷の地であり、天からの雨で潤っている」（11節）

*「年の初めから年の終わりまで、【主】が絶えずその上に目をとどめておられる地である」（12節）

*約束の地での農業は、【主】の恵みに依存した農業である。

*約束の地は、イスラエルの民の信仰を試す地である。

3. 13～15節

Deu 11:13 もしわたしが今日あなたがたに命じる命令、すなわち、あなたがたの神、【主】を愛し、心を尽くし、いのちを尽くして仕えよという命令に、あなたがたが確かに聞き従うなら、

Deu 11:14 わたしは時にかなって、あなたがたの地に雨、初めの雨と後の雨をもたらす。あなたは穀物と新しいぶどう酒と油を集めることができる。

Deu 11:15 また、わたしはあなたの家畜のため野に草を与える。あなたは食べて満ち足りる。

(1) 【主】を愛するとは、【主】の命令に聞き従うことである。

①「心を尽くし、いのちを尽くして仕えよという命令」

(2) 従順に対する報いは、天からの雨である。

①初めの雨とは、秋に降る雨、種を蒔く時期の雨である。

②後の雨とは、春に降る雨、収穫前に降る雨である。

③初めの雨と後の雨は、豊かな収穫をもたらす。

*穀物（大麦、小麦、亜麻）

*新しいぶどう酒（ぶどう）

*油（オリーブオイル）

*野の草（家畜が肥える）

④イスラエルの民は、その地で食べて満ち足りる。

(ILL) オスマントルコ帝国の時代とユダヤ人の帰還以降の時代の対比

4. 16～17節

Deu 11:16 気をつけなさい。あなたがたの心が惑わされ横道に外れて、ほかの神々に仕え、それを拝むことのないように。

Deu 11:17 そうでないと、【主】の怒りがあなたがたに向かって燃え上がり、主が天を閉ざし、雨は降らず、地はその産物を出さなくなる。こうしてあなたがたは、【主】が与えようとしているその良い地から、たちまち滅び去ることになる。

(1) カナン人の偶像に注意する必要がある。

①訳文の比較

- * 「気をつけなさい」（新改訳 2017）
- * 「注意しなさい」（新共同訳）
- * 「慎まなければならない」（口語訳）
- * 「自ら慎むべし」（文語訳）
- * 「油断は禁物です」（リビングバイブル）

②カナン人の偶像は、豊穡の神、穀物の神、油の神、雨の神などである。

③カナン人の偶像には、イスラエルの民を誘惑する力がある。

- * 彼らの礼拝は、道徳や倫理から逸脱した礼拝である。
- * 神殿娼婦との性行が礼拝の一部に組み込まれている。

(2) もし偶像礼拝に陥るなら、【主】の怒りが燃え上がる。

- ①雨が降らなくなる。
- ②地はその産物を出さなくなる。
- ③イスラエルの民は、たちまち滅び去ることになる。
- ④滅びを免れるためには、モーセが語った内容を常に覚えておく必要がある。

5. 18～21 節

Deu 11:18 あなたがたは、わたしのこのことばを心とたましいに刻み、それをしるしとして手に結び付け、記章として額の上に置きなさい。

Deu 11:19 それをあなたがたの子どもたちに教えなさい。あなたが家に座しているときも道を歩くときも、寝るときも起きるときも、これを彼らに語りなさい。

Deu 11:20 これをあなたの家の戸口の柱と門に書き記しなさい。

Deu 11:21 それは、【主】があなたがたの父祖たちに与えると誓った地で、あなたがたの日数とあなたがたの子孫の日数が、天が地の上にある日数のように多くなるためである。

(1) すでに語られたことの再確認である。

①申 6：6

Deu 6:6 私が今日あなたに命じるこれらのことばを心にとどめなさい。

- * モーセが語る【主】の戒めを心にとどめる。
- * 子どもたちによく教え込む。
 - ・生活の全般を通して、子どもたちに教える。
- * 家庭が最も重要な宗教教育の場となる。

②申 6：8

Deu 6:8 これをしるしとして自分の手に結び付け、記章として額の上に置きなさい。

- * 「しるし」「記章」「戸口の柱と門」

*これらは比喩的言葉である。

*正統派のユダヤ人たちは、これを文字通りに解釈する。

(2) 【主】の命令に従うことは、祝された生活を送るための鍵である。

①次にテーマは、「約束の地での繁栄」から「戦いにおける勝利」に変わる。

6. 22～25 節

Deu 11:22 もしあなたがたが、私の命じるこのすべての命令を確かに守り行い、あなたがたの神、【主】を愛して主のすべての道に歩み、主にすぎるなら、

Deu 11:23 【主】はこれらの国々をことごとくあなたがたの前から追い払い、あなたがたは、自分たちよりも大きくて強い国々を占領することができる。

Deu 11:24 あなたがたが足の裏で踏む場所は、ことごとくあなたがたのものとなる。荒野からレバノンまで、あの川、ユーフラテス川から西の海に至るまでがあなたがたの領土となる。

Deu 11:25 だれ一人として、あなたがたの前に立ちはだかる者はいない。あなたがたの神、【主】は、あなたがたに約束されたとおりに、あなたがたが足を踏み入れる地の全面に、あなたがたに対するおののきと恐れを生じさせる。

(1) カナンの地征服戦争は、超自然的な戦いである。

①民が【主】を愛するなら、【主】はカナン人の国々を追い払われる。

②イスラエルの民は、自分たちよりも強い敵に勝利することができる。

(2) 民が足の裏で踏む場所は、ことごとく彼らの領土となる。

①「荒野からレバノンまで、あの川、ユーフラテス川から西の海に至るまで」

②これが約束の地の範囲である。

③イスラエルの民は、まだ一度もこの範囲の領土を所有したことがない。

*不信仰のゆえに、そうになっている。

IV. 祝福とのろい (11 : 26～32)

1. 26～28 節

Deu 11:26 見よ、私は今日、あなたがたの前に祝福とのろいを置く。

Deu 11:27 祝福とは、私が今日あなたがたに命じる、あなたがたの神、【主】の命令に聞き従った場合であり、

Deu 11:28 のろいとは、あなたがたの神、【主】の命令に聞き従わず、私が今日あなたがたに命じる道から外れて、あなたがたの知らなかったほかの神々に従って行った場合である。

(1) 「祝福とのろい」に関しては、申 27～28 章で詳細に取り上げられる。

①ここは、「全的従順の呼びかけ（6～11章）」の結論となっている。

2. 29～30節

Deu 11:29 あなたが入って行って所有しようとしている地に、あなたの神、【主】があなたを導き入れたら、あなたはゲリジム山の上には祝福を、エバル山の上にはのろいを置かなければならない。

Deu 11:30 それらの山はヨルダン川の向こう側、日の入る方の、アラバに住むカナン人の地にあり、ギルガルの向かい、モレの櫨の木の付近にあるではないか。

(1) シェケム郊外にある2つの山が、祝福とのろいの象徴となる。

①ゲリジム山とエバル山の間、谷が東西に走っている。

②ゲリジム山（南）は、祝福の象徴。

③エバル山（北）は、のろいの象徴。

(2) 象徴的な儀式が実行される。

①6部族がゲリジム山に立つと、祭司は彼らに向かって祝福を宣言する。

②残りの6部族がエバル山に立つと、祭司はのろいを宣言する。

③6部族は、それぞれの宣言に対して「アーメン」と唱和する。

(3) 「モレの櫨の木の付近にあるではないか」

①創 35：1～4 でヤコブは、自分の家から偶像を除き、櫨の木の下に埋めた。

3. 31～32節

Deu 11:31 あなたがたはヨルダン川を渡り、あなたがたの神、【主】があなたがたに与えようとしておられる地に入って行って、それを所有しようとしている。あなたがたがそこを所有し、そこに住むとき、

Deu 11:32 私が今日あなたがたの前に与える、すべての掟と定めを守り行わなければならない。

(1) これまで語ったことの繰り返しである。

①【主】の掟と定めを行うことは、約束の地で長く生きるための条件である。

結論：クリスチャンへの適用

1. 2テモ 3：1～5

2Ti 3:1 終わりの日には困難な時代が来ることを、承知していなさい。

2Ti 3:2 そのときに人々は、自分だけを愛し、金銭を愛し、大言壮語し、高ぶり、神を冒瀆し、両親に従わず、恩知らずで、汚れた者になります。

2Ti 3:3 また、情け知らずで、人と和解せず、中傷し、自制できず、粗野で、善を好まない者になり、

2Ti 3:4 人を裏切り、向こう見ずで、思い上がり、神よりも快樂を愛する者になり、

2Ti 3:5 見かけは敬虔であっても、敬虔の力を否定する者になります。こういう人たちを避けなさい。

- (1) 私たちは、偶像礼拝者に取り囲まれている。
- (2) 終わりの日に姿を現わす偶像礼拝
- (3) 「こういう人たちを避けなさい」

2. 2テモ 3:14~17

2Ti 3:14 けれどもあなたは、学んで確信したところにとどまっていなさい。あなたは自分がだれから学んだかを知っており、

2Ti 3:15 また、自分が幼いころから聖書に親しんできたことも知っているからです。聖書はあなたに知恵を与えて、キリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができます。

2Ti 3:16 聖書はすべて神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。

2Ti 3:17 神の人がすべての良い働きにふさわしく、十分に整えられた者となるためです。

- (1) 聖書には、神の御心が記されている。
- (2) 聖書には、私たちが十分に整えられた者として育てる力がある。
- (3) 私たちは、聖書を通して、いかに生きるべきかを知ることができる。

3. コロ 3:16

Col 3:16 キリストのことばが、あなたがたのうちに豊かに住むようにしなさい。知恵を尽くして互いに教え、忠告し合い、詩と賛美と霊の歌により、感謝をもって心から神に向かって歌いなさい。

- (1) 祝された生活の秘訣は、キリストのことばをいつも心に留めることである。
- (2) 同じ信仰に立つ兄弟姉妹たちとの交わりは、私たちの霊性を守ってくれる。
- (3) 真の神を礼拝することは、私たちの魂を健やかなものにする。

申命記 29回

「礼拝に関する規定」

申 12 : 1～28 （朗読箇所 12 : 1～7）

1. はじめに

(1) 第2の説教：契約に基づく義務

- ①総論：臣下の義務（4：44～5：33）
- ②全的従順の呼びかけ（6～11章）
- ③律法の解説と日常生活への適用（12：1～26：15）
- ④【主】に対する誓約（26：16～19）

(3) ここから、各論的解説とその適用に入る。

- ①この区切りを12項目に分けて解説する。
- ②今回は、項目の1と2を取り上げる。
- ③この区切りでは、繰り返しがよく出て来る。
 - *繰り返しは、重要な教授法である。
 - *モーセは、口頭で律法を伝えている。

2. メッセージのアウトライン

- (1) イントロダクション（12：1）
- (2) 礼拝に関する規定（12：2～28）
 - ①偶像の破壊（2～4節）
 - ②礼拝の場所（5～7節）
 - ③礼拝の方法（8～14節）
 - ④ささげ物（15～28節）

3. 結論：廃棄されたものと残されたもの

- (1) 礼拝の場所
- (2) 礼拝の喜び
- (3) 礼拝の本質

礼拝に関する規定について学ぶ。

I. イントロダクション（12：1）

1. 1節

Deu 12:1 これは、あなたの父祖の神、【主】があなたに与えて所有させてくださった地で、あなたがたがその土地に生きるすべての日々に、守り行わなければならない掟と定めである。

- (1) モーセは、【主】の掟と定めを要約して語っている。
 - ①出エジプトとレビ記には、律法の詳細が記録されている。
 - ②申命記では、モーセは、民を墮落から守るために律法の要点を語っている。
 - ③これらの律法を行えば、墮落の危険を回避することができる。
- (2) これらの律法は、約束の地での生活を前提とした戒めである。
 - ①イスラエルの民は、モアブの野にいた。
 - ②約束の地に入る前に、モーセはその地が与えられると確信していた。
 - ③「【主】があなたに与えて所有させてくださった地で、」（完了形）
 - ④約束の地が与えられたという前提で、民はモーセに耳を傾ける必要がある。

II. 礼拝に関する規定（12：2～28）

1. 偶像の破壊（2～4節）

(1) 2～4節

Deu 12:2 あなたがたが追い払おうとする異邦の民がその神々に仕えた場所は、高い山の上でも、丘の上でも、また青々と茂るどの木の下でも、それをことごとく破壊しなければならない。

Deu 12:3 彼らの祭壇を打ち壊し、石の柱を打ち砕き、アシェラ像を火で焼き、神々の彫像を切り倒して、それらの名をその場所から消し去りなさい。

Deu 12:4 あなたがたの神、【主】に対しては、そのように礼拝してはならない。

- (2) 古代中近東の宗教では、高い山や丘は、重要な意味を持っていた。
 - ①神々はそこで生まれ、そこに住んでいると考えられた。
 - ②青々と茂る木も、豊穰神礼拝にとっては、重要な意味を持っていた。
 - ③征服者は、そこにある偶像礼拝の場を、自分の偶像を礼拝する場と変えた。
 - ④その結果、カナンの地には偶像礼拝の場が無数に存在していた。
- (3) 完全に破壊すべきもの
 - ①山の上、丘の上、青々と茂る木の下などに建てられた祭壇
 - ②石の柱（男性の豊穰神のシンボルであろう）
 - ③アシェラ像（女性の豊穰神のシンボルである木の像）
 - ④神々の彫像
- (4) カナン人たちが偶像を礼拝するように、【主】を礼拝してはならない。
 - ①偶像礼拝に関わるものを完全に破壊するのは、【主】への献身の表明である。
 - ②偶像神の存在は信じていないので、偶像への恐れはないという表明である。
- (5) この命令は、イスラエルの民だけに適用すべきものである。

- ①クリスチャンにこの命令を適用してはならない。
- ②しかし、クリスチャンが学ぶべき教訓はある。

2. 礼拝の場所（5～7節）

(1) 5～7節

Deu 12:5 ただ、あなたがたの神、【主】がご自分の住まいとして御名を置くために、あなたがたの全部族のうちから選ばれる場所を尋ねて、そこへ行かなければならない。

Deu 12:6 あなたがたは全焼のささげ物、いけにえ、十分の一、あなたがたが供える奉納物、誓願のささげ物、進んで献げるもの、あなたがたの牛や羊の初子をそこに携えて行きなさい。

Deu 12:7 そこであなたがたは家族の者とともに、あなたがたの神、【主】の前で食事をし、あなたの神、【主】が祝福してくださった、あなたがたのすべての手のわざを喜び楽しみなさい。

(2) カナンの地に入ったなら、【主】はひとつの場所を選ばれる。

- ①【主】がご自身の住まいとして御名を置くために選ばれる場所
- ②遍在の【主】が、特にイスラエルの民のために臨在を表わされる。
- ③イスラエルの民は、その場所に行って【主】を礼拝する。
- ④幕屋（神殿）のある場所であり、神とイスラエルの民が出会う場所である。
- ⑤もちろん、【主】に祈ることは、どこで行ってもよかった。

(3) 神の命令によって、その場所は変わる。

- ①最終的に固定されたのは、ダビデが契約の箱をエルサレムに移動させた時。
- ②その場所に、ソロモンが神殿を建設した。

(4) 礼拝の際に、種々のささげ物を捧げる。

- ①イスラエルの民の礼拝には、喜びが伴っている。
- ②家族の者とともに、【主】の前で食事をし、喜び楽しむ。
- ③【主】の豊かな祝福を信じているので、安心して楽しむことができる。

(5) 申命記は、宗主権契約の契約書である。

- ①王は臣民から完全な忠誠を要求する。
- ②臣民は、王を迂回して、外国の王たちと交流してはならない。
- ③さらに、臣民は、王以外の外国の王たちに貢ぎ物を贈ってはならない。

(6) しかし、イスラエルの民は失敗する（1列14：22～23）。

1Ki 14:22 ユダの人々は【主】の目に悪であることを行い、彼らが犯した罪によって、その先祖たちが行ったすべてのこと以上に主のねたみを引き起こした。

1Ki 14:23 彼らも、すべての高い丘の上や青々と茂るあらゆる木の下に、高き所や、石の柱や、アシェラ像を立てた。

3. 礼拝の方法（8～14節）

(1) 8～9節

Deu 12:8 あなたがたは、私たちが今日ここでしているようにしてはならない。それぞれが自分の目にかなうことをしている。

Deu 12:9 あなたがたがまだ、あなたの神、【主】があなたに与えようとしておられる安住の地、ゆずりの地に入っていないからである。

- ①イスラエルの民は、自分の目によいと思う方法で牛、羊、やぎを屠っていた。
- ②レビ 17:3～4 は、先ず幕屋に持って来て、祭司に見せるように命じていた。
- ③そうしない者は、血を流した責任を問われることになる。
 - *この規定は、イスラエルの民を偶像礼拝から守るためである。
 - *また、血を食べることがないようにするためである。
- ④約束の地に入ったなら、そのような自分勝手な行為は許されない。

(2) 10～11節

Deu 12:10 あなたがたがヨルダン川を渡り、あなたがたの神、【主】があなたがたに受け継がせようとしておられる地に住み、主が周囲のすべての敵からあなたがたを守って安息を与え、あなたがたが安らかに住むようになったら、

Deu 12:11 あなたがたの神、【主】が御名を住まわせるために選ばれる場所へ、私が命じるすべての物を携えて行かなければならない。あなたがたの全焼のささげ物といけにえ、十分の一と、あなたがたが供える奉納物、それに【主】に誓う最良の誓願のささげ物である。

- ①約束の地に定住したなら、【主】の命令通りにささげ物を捧げる。
- ②【主】が指定された場所に行く（幕屋、神殿がある場所）。
- ③モーセが命じるすべての物を携えて行く。
 - *全焼のささげ物、十分の一、奉納物、最良の誓願のささげ物

(3) 12～14節

Deu 12:12 あなたがたは息子、娘、男奴隷、女奴隷とともに、あなたがたの神、【主】の前で喜び楽しみなさい。また、あなたがたの町囲みの中にいるレビ人も、そうしなさい。レビ人には、あなたがたと同じようには相続地が割り当てられないからである。

Deu 12:13 全焼のささげ物を、自分勝手な場所で献げないように気をつけなさい。

Deu 12:14 ただ【主】があなたの部族の一つのうちに選ばれる場所で、あなたは全焼のささげ物を献げ、そこで、私があなたに命じるすべてのことを行いなさい。

- ①礼拝は、喜び楽しむ時である。
- ②息子、娘、男奴隷、女奴隷などがすべてこの喜びに参加する。
 - *ささげ物の一部を食して、宴会を催す。
- ③その時に同じ町にいるレビ人も、この宴会に参加する。
 - *レビ人には相続地が割り当てられていなかった。

4. 【主】へのささげ物（15～28節）

(1) 15～16節

Deu 12:15 しかし、あなたの神、【主】があなたに下さった祝福にしたがって、あなたのどの町囲みの中でも、いつでも自分の欲するとき動物を屠り、その肉を食べることができる。汚れた人もきよい人も、かもしかや鹿と同じようにそれを食べることができる。

Deu 12:16 ただし血は食べてはならない。それを地面に水のように注ぎ出さなければならない。

- ①荒野では、幕屋で家畜を屠った。
- ②約束の地では、自分の町で家畜を屠り、その肉を食べることができる。
- ③狩猟の獲物であるかもしかや鹿と同じように、扱えばよい。
- ④ただし、血を食べてはならない。
- ⑤ささげ物ではない肉は、儀式的な汚れとは無関係に食べることができる。

(2) 17～19節

Deu 12:17 あなたは穀物や新しいぶどう酒、オリーブ油の十分の一のささげ物、牛や羊の初子、またあなたが誓うすべての誓願のささげ物、進んで献げるもの、あなたの供える奉獻物のすべてを、あなたの町囲みの中で食べることはできない。

Deu 12:18 ただ、あなたの神、【主】が選ばれる場所で、あなたの息子、娘、男奴隷、女奴隷、およびあなたの町囲みの中にいるレビ人とともに、あなたの神、【主】の前でそれらを食べなければならない。あなたの神、【主】の前で、あなたのすべての手のわざを喜び楽しみなさい。

Deu 12:19 あなたは一生、あなたの土地でレビ人をないがしろにしないように気をつけなさい。

- ①しかし、ささげ物となった食物は、自分の勝手に食べてはならない。
- ②【主】が選ばれる場所で、家族とともに食べる。
- ③レビ人をその宴会に招かななければならない。
- ⑤土地の割り当てがないレビ人は、それ以外の部族の支援によって生活する。

(3) 20～22節

Deu 12:20 あなたの神、【主】が、あなたに告げたとおりにあなたの領土を広くしてくださって、あなたが肉を食べたくなる時には、「肉が食べたい」と言ってよい。あなたは食べたいだけ肉を食べてもよい。

Deu 12:21 もしあなたの神、【主】が御名を置くために選ばれる場所が遠く離れているなら、私があなたに命じたように、あなたは【主】が与えられた牛と羊を屠り、あなたの町囲みの中で食べたいだけ食べてもよい。

Deu 12:22 かもしかや鹿を食べるように、それを食べてもよい。汚れた人ときよい人が一緒にそれを食べてもよい。

- ①カナンの地に入ると、民の住居は【主】が選ばれる場所から遠く離れる。
- ②ささげ物でないので、幕屋にそれを持って来る必要はない。
- ③生活している町の中で、食べただけ食べてもよい。
- ④ささげ物ではないので、儀式的汚れを問題にしなくてもよい。

(4) 23～25 節

Deu 12:23 ただ、血は決して食べてはならない。血はいのちだからである。いのちを肉と一緒に食べてはならない。

Deu 12:24 血を食べてはならない。それを地面に水のように注ぎ出さなければならない。

Deu 12:25 血を食べてはならない。あなたも、あなたの後の子孫も幸せになるためである。あなたは【主】の目にかなうことを行わなければならない。

- ①ただし、血を食べることは禁じられた。
- ②血はいのちである。いのちの尊厳を教えるための命令である。
- ③また、イスラエルの民を、カナン人の偶像礼拝から守るための命令である。

(5) 26～27 節

Deu 12:26 ただし、あなたが献げるべき聖なるものと、誓願のささげ物は、【主】が選ばれる場所へ携えて行かなければならない。

Deu 12:27 あなたの全焼のささげ物はその肉と血を、あなたの神、【主】の祭壇の上に献げなさい。あなたのいけにえの血は、あなたの神、【主】の祭壇の上に注ぎ出さなければならない。その肉は食べてもよい。

- ①ささげ物は、【主】が選ばれる場所に携えて行く。
- ②全焼のささげ物は、その血と肉をすべて祭壇の上で焼く。
- ③その他のいけにえは、血を祭壇の上に注ぎ出し、肉は食べてもよい。

(6) 28 節

Deu 12:28 気をつけて、私が命じるこれらのすべてのことばに聞き従いなさい。それはあなたが、あなたの神、【主】の目にかなう良いことを行って、あなたも後の子孫も永久に幸せになるためである。

- ①約束の地で長く幸せに生きる秘訣は、【主】の命令に従うことである。

結論：廃棄されたものと残されたもの

*12項目の最初(イントロダクションの次)に礼拝に関する規定が出て来る。

1. 礼拝の場所

(1) 単一の聖所の規定は、廃棄された。

(2) 2 コリ 6 : 16

2Co 6:16 神の宮と偶像に何の一致があるでしょう。私たちは生ける神の宮なのです。神がこう言われるとおりに。／「わたしは彼らの間に住み、また歩む。／わたしは彼らの神となり、／彼らはわたしの民となる。

- ①信者の心には、聖霊が内住しておられる。
- ②それゆえ、単一の聖所の規定は廃棄された。
- (3) 今私たちは、同じ場所ではなく、イエス・キリストの周りに集まる。

2. 礼拝の喜び

- (1) 申命記には、礼拝が喜びであるという表現が、何度も出て来る。
- (2) 申 16 : 14~15 (仮庵の祭り)

Deu 16:14 この祭りのときには、あなたも、あなたの息子、娘、男女の奴隷、あなたの町囲みの中にいるレビ人、寄留者、孤児、やもめもともに喜び楽しみなさい。

Deu 16:15 あなたの神、【主】のために、【主】が選ばれる場所で七日間、祭りを行わなければならない。あなたの神、【主】があなたのすべての収穫、あなたの手のすべてのわざを祝福されるからである。あなたは大いに喜びなさい。

- (3) この真理は、今も生きている (使 2 : 46~47) 。

Act 2:46 そして、毎日心をつ一つにして宮に集まり、家々でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、

Act 2:47 神を賛美し、民全体から好意を持たれていた。主は毎日、救われる人々を加えて一つにしてくださった。

- ①使徒の働きのサブテーマのひとつは、喜びである。

3. 礼拝の本質

- (1) 単一の聖所の命令には、3つの目的があった。
 - ①神の単一性を教える (神は唯一であって、複数存在するのではない) 。
 - ②礼拝の純粋性を保証する。
 - ③イスラエルの民の政治的、霊的連帯を促進する。
- (2) 礼拝の純粋性と信徒の一致は、今も残されている。

- ①ヨハ 4 : 24

Joh 4:24 神は霊ですから、神を礼拝する人は、御霊と真理によって礼拝しなければなりません。」

*この山 (ゲリジム山) かエルサレムか。場所は問題ではない。

- ②ピリ 2 : 1~2

Php 2:1 ですから、キリストにあつて励ましがあつて、愛の慰めがあつて、御霊の交わりがあつて、愛情とあわれみがあるなら、

Php 2:2 あなたがたは同じ思いとなり、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、思いをつ一つにして、私の喜びを満たしてください。

*キリストの謙遜が、一致のベースである。

申命記 30回

「偶像礼拝に対する警告」

申 12 : 29 ~ 13 : 18 (朗読箇所 12 : 29 ~ 13 : 5)

1. はじめに

(1) 第2の説教：契約に基づく義務

- ①総論：臣下の義務(4 : 44 ~ 5 : 33)
- ②全的従順の呼びかけ(6 ~ 11章)
- ③律法の解説と日常生活への適用(12 : 1 ~ 26 : 15)
- ④【主】に対する誓約(26 : 16 ~ 19)

(3) この箇所は、律法の各論的解説とその適用である。

- ①この箇所は12項目に分割することができる。
- ②今回は、項目3を取り上げる。
- ③内容は、第2戒に関する警告である。

2. メッセージのアウトライン

(3) 偶像礼拝に対する警告(12 : 29 ~ 13 : 18)

- ①偶像の神々(12 : 29 ~ 32)
- ②偽預言者のことば(13 : 1 ~ 5)
- ③愛する者のことば(13 : 6 ~ 11)
- ④よこしまな者のことば(13 : 12 ~ 18)

3. 結論

- (1) イスラエルの民のその後
- (2) 主イエスに対する献身

偶像礼拝に関する警告について学ぶ。

I. 偶像の神々(12 : 29 ~ 32)

1. 29 ~ 30節

Deu 12:29 あなたが入って行って所有しようとしている国々をあなたの神、【主】があなたの前から絶ち滅ぼし、あなたがそれらを所有して、その地に住むようになったら、

Deu 12:30 よく気をつけて、彼らがあなたの前から根絶やしにされた後に、彼らに倣って畏に陥らないようにしなさい。「これらの異邦の民はどのように神々に仕えたのだろう。私もそうしてみよう」と言って、彼らの神々を求めることのないようにしなさい。

- (1) 礼拝に関する規定に続いて、偶像礼拝の禁止令が繰り返される。

- ①イスラエルの民は、カナン人の偶像礼拝から完全に離れる必要があった。
- ②モーセは、イスラエルの民が偶像礼拝に弱いということを見抜いていた。

(2) 偶像礼拝が重大な罪である理由 (その1)

- ①約束の地に定住できたのは、【主】が敵を滅ぼされたからである。
- ②イスラエルの民は、【主】の恵みによってその土地を所有するようになった。
- ③イスラエルの民の生活は、【主】の恵みによって支えられている。
- ④宗主権契約においては、王に忠誠を誓わないことは死に値する罪である。
- ⑤【主】の恵みを体験しながら、ちょっとした好奇心で道を誤るのは罪である。
- ⑥偶像礼拝に興味を持つのは、民の心が墮落していたことの証拠である。
- ⑦リビングバイブルの訳文

Deu 12:29 神様が国々を滅ぼされ、あなたがたがそこに住みつくようになって、

Deu 12:30 その神々を拝むようなまねは、まちがってもしてはいけません。『どんなふうに拝めばいいのですか』などと言って、のこのこ拝みに行ってはいけません。

2. 31～32節

Deu 12:31 あなたの神、【主】に対して彼らのように礼拝してはならない。彼らは【主】が憎むあらゆる忌み嫌うべきことをその神々に行い、自分たちの息子、娘を自分たちの神々のために火で焼くことさえしたのである。

Deu 12:32 あなたがたは、私があなたがたに命じるすべてのことを守り行わなければならない。これにつけ加えたり減らしたりしてはならない。

(1) 偶像礼拝が重大な罪である理由 (その2)

- ①偶像礼拝には、【主】が憎むあらゆる忌み嫌うべき行為が伴っている。
- ②代表的な例は、性的墮落である。
- ③さらに、自分たちの息子、娘を偶像のために焼くことさえした。
*これは、アモリ人の偶像モレクに捧げるいけにえであった。
- ④この罪に対する罰は、死刑である(レビ20:2～5)。
- ⑤【主】の命令に何かをつけ加えたり、減らしたりしてはならない。

(2) 偶像礼拝への誘惑は3つの方法でやって来る。

- ①偽預言者、愛する者、よこしまな者

II. 偽預言者のことば(13:1～5)

1. 1～3a節

Deu 13:1 あなたがたのうちに預言者または夢見る者が現れ、あなたに何かのしるしや不思議を示し、

Deu 13:2 あなたに告げたそのしるしと不思議が実現して、「さあ、あなたが知らなかったほかの神々に従い、これに仕えよう」と言っても、

Deu 13:3a その預言者、夢見る者のことばに聞き従ってはならない。

(1) 真理は、奇跡によって証明されるわけではない。

- ①奇跡は、どの宗教でも起こり得る現象である。
- ②預言者や夢見る者が奇跡を行っても、信用してはならない。
- ③真理かどうかを判断する基準は、奇跡や体験ではなく、神のことばである。

(2) サタンは、人々を惑わすために、偽の宗教や偽預言者を利用する。

①2 コリ 11：13～14

2Co 11:13 こういう者たちは偽使徒、人を欺く働き人であり、キリストの使徒に変装しているのです。

2Co 11:14 しかし、驚くには及びません。サタンでさえ光の御使いに変装します。

②ユダヤ人がイエスを信じないのは、イエスを偽預言者と考えるからである。

2. 3b～4 節

Deu 13:3b あなたがたの神、【主】は、あなたがたが心を尽くし、いのちを尽くして、本当にあなたがたの神、【主】を愛しているかどうかを知ろうとして、あなたがたを試みておられるからである。

Deu 13:4 あなたがたの神、【主】に従って歩み、主を恐れなければならない。主の命令を守り、御声に聞き従い、主に仕え、主にすがらなければならない。

(1) 神が偽預言者の活動を許している理由は、【主】への愛を試すためである。

①誘惑に勝つ度に、私たちの信仰は強くなる。

②ヤコ 1：2～4

Jas 1:2 私の兄弟たち。様々な試練にあうときはいつでも、この上もない喜びと思いなさい。

Jas 1:3 あなたがたが知っているとおり、信仰が試されると忍耐が生まれます。

Jas 1:4 その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは何一つ欠けたところのない、成熟した、完全な者となります。

3. 5 節

Deu 13:5 その預言者あるいは夢見る者は殺されなければならない。なぜならその人は、あなたがたをエジプトの地から導き出して奴隷の家から贖い出された、あなたがたの神、【主】に対して、あなたがたが反逆するようにそそのかし、あなたがたの神、【主】が歩めと命じた道から、あなたを迷わせようとするからである。あなたがたの中からその悪い者を除き去りなさい。

- (1) 偽預言者や夢見る者は殺されなければならない。
 - ①イスラエルの民の間から、悪を除き去るためである。
 - ②偶像礼拝に誘導する者たちを放置すると、国が滅びる。

Ⅲ. 愛する者のことば (13:6~11)

1. 6~7節

Deu 13:6 あなたと母を同じくする兄弟、あるいはあなたの息子、娘、あるいはあなたの愛妻、あるいはあなたの無二の親友がひそかにあなたをそそのかして、「さあ、ほかの神々に仕えよう」と言うかもしれない。これはあなたも先祖たちも知らなかった神々で、

Deu 13:7 地の果てから果てまで、あなたの近くにいる、あるいはあなたから遠く離れている、あなたがたの周りのあらゆる民の神々である。

- (1) 誘惑は、兄弟、妻、息子、娘、親友からもやって来る。
 - ①この場合の誘惑は、ひそかにやって来る。
 - ②さらに、個人的にやって来る。

- (2) 「あなたも先祖たちも知らなかった神々」
 - ①これらの偶像に関して、知識がないという意味ではない。
 - ②体験的に、これらの偶像を知らなかったという意味である。
 - ③つまり、これらの偶像は、イスラエルの民を助けたことがないのである。
 - ④【主】は、イスラエルの民をエジプトから解放された。
 - ⑤それゆえ、宗主権契約が成り立つのである。

2. 8~11節

Deu 13:8 あなたはそういう者に同意しようとしたり、耳を貸したりしてはならない。そのような者にあわれみをかけたり、容赦したり、かばったりしてはならない。

Deu 13:9 必ずその人を殺さなければならない。彼を処刑するには、まず、あなたが彼に手を下し、その後で、民全員が手を下すようにしなさい。

Deu 13:10 彼を石で打ちなさい。彼は死ななければならない。彼は、エジプトの地、奴隷の家からあなたを導き出されたあなたの神、【主】から、あなたを迷わせようとしたからである。

Deu 13:11 イスラエルはみな聞いて恐れ、二度とこのような悪をあなたがたのうちで行わないであらう。

- (1) 愛する者をかばいたくなるのが人情であるが、【主】に従うべきである。
 - ①同意するな。耳を貸すな。あわれみをかけるな。容赦するな。かばうな。
 - ②石打の刑を実行せよ。
 - *最初に、あなたが石を投げる。

*これは、自分の証言が真実であることの証明となる。

*その後で、民全員が手を下す。

③【主】との関係を家族関係よりも優先させるということである。

(2) この行為は、イスラエルの民に恐れをもたらす。

①偶像礼拝の誘惑に陥ることがいかに重罪であるかを理解するようになる。

IV. よこしまな者のことば (13:12~18)

1. 12~14節 a

Deu 13:12 もしあなたの神、【主】があなたに与えて住ませる町の一つで、

Deu 13:13 よこしまな者たちがあなたのうちから出て、「さあ、あなたがたが知らなかったほかの神々に仕えよう」と言って町の住民を迷わせたと言ったなら、

Deu 13:14a あなたは調べ、探り、よく問いたださなければならない。

(1) よこしまな者は、ならず者、邪悪な者、煽動する者、秩序を破壊する革命家。

①彼らには説得力があるので、町全体を迷わせることができる。

②【主】が与えてくださった町を破壊するので、最も危険な人たちである。

2. 14b~16節

Deu 13:14b もしそのような忌み嫌うべきことが、あなたがたのうちで行われたことが事実で確かなら、

Deu 13:15 あなたはその町の住民を必ず剣の刃で討たなければならない。その町とそこにいるすべての者、その家畜も剣の刃で聖絶しなさい。

Deu 13:16 そのすべての略奪物を広場の中央に集め、その町と略奪物のすべてを、あなたの神、【主】への焼き尽くすささげ物として火で燃やさなければならない。その町は永久に廃墟となり、再建されることはない。

(1) この場合の罰は劇的なものなので、先ず事実関係を慎重に調べる必要がある。

①住民が偶像礼拝に走ったことが事実なら、カナン人の町のように扱う。

②その町を聖絶する。

*町の住民と家畜を剣の刃で討ち、略奪物のすべてを広場で燃やす。

*その町は、永久に廃墟となり、再建されることはない。

③ベニヤミン族の町ギブアの例がある（士20章）。

3. 17~18節

Deu 13:17 その聖絶の物は、一部でも、あなたの手の中にとどまることがあってはならない。それは【主】が燃える怒りを収めて、あなたにあわれみを施し、あなたの父祖たちに誓ったとおりに、あなたをあわれんで、あなたを増やすためである。

Deu 13:18 というのは、あなたは必ずあなたの神、【主】の御声に聞き従って、私が今日あなたに命じるすべての主の命令を守り、あなたの神、【主】の目にかなうことを行わなければならないからである。

- (1) 聖絶の物を、一部でも、自分のために取ってはならない。
 - ①これは、約束の地を清めるための手段である。
 - ②聖絶によって、【主】の怒りは静められる。
 - ③【主】は再び、イスラエルの民を祝福される。
 - ④先祖たちに誓ったとおりである。
 - ⑤それゆえ、【主】の命令を守り、【主】の目にかなうことを行う必要がある。

- (2) イスラエルの民は、この章に記された命令に背いた。
 - ①その結果、北王国の滅び、南王国の滅びがやって来た。
 - ②この章の命令は、クリスチャンには適用されない。
 - *新約時代の教会は、「神政政治」の王国ではない。
 - *しかし、罪を犯した者への処罰は行うべきである。

結論

1. イスラエルの民のその後

- (1) モレクは、アモリ人の偶像である。
 - ①モレク礼拝は、最も堕落した形の偶像礼拝である。
- (2) **イスラエルの民が破滅に至るステップ**
 - ①カナン人の偶像礼拝に対して少しばかりの好奇心を抱く。
 - ②カナン人が礼拝しているように、偶像を礼拝してみる。
 - ③それが習慣化し、そこから抜けられなくなる。
 - ④最後は、【主】の怒りを買ひ、裁かれる。
- (3) 聖句

①レビ 18 : 21

Lev 18:21 また、自分の子どもを一人でも、火の中を通してモレクに渡してはならない。あなたの神の名を汚してはならない。わたしは【主】である。

②1列 11 : 7 (ソロモン王)

1Ki 11:7 当時ソロモンは、モアブの忌むべきケモシユのために、エルサレムの東にある山の上に高き所を築いた。アンモン人の、忌むべきモレクのためにも、そうした。

③2列 23 : 10 (ヨシヤ王)

2Ki 23:10 彼はベン・ヒノムの谷にあるトフェトを汚し、だれも、自分の息子や娘に火の中を通してモレクに献げることのないようにした。

④エレ 32 : 35 (【主】の怒り)

Jer 32:35 ベン・ヒノムの谷にバアルの高き所を築き、自分の息子、娘たちに火の中を通らせてモレクに渡した。しかしわたしは、この忌み嫌うべきことを行わせてユダを罪に陥らせようなどと、命じたことも、心に思い浮かべたこともない。」

⑤2列 17:17 (バビロン捕囚の主要原因のひとつ)

2Ki 17:17 また、自分たちの息子や娘たちに火の中を通らせ、占いをし、まじないをし、**【主】**の目に悪であることを行うことに身を任せ、主の怒りを引き起こした。

(3) 私たちへの警告 (少しばかりの好奇心への警告 エペ 5:10~12)

Eph 5:10 何が主に喜ばれることなのかを吟味しなさい。

Eph 5:11 実を結ばない暗闇のわざに加わらず、むしろ、それを明るみに出しなさい。

Eph 5:12 彼らがひそかに行っていることは、口にすることも恥ずかしいことなのです。

2. 主イエスに対するの献身

(1) 宗主権契約をモデルにして、イエスへの献身を考えてみよう。

①主イエスは、私たちが罪と死の束縛から解放してくださった。

②主イエスには、私たちに忠誠を要求する権利がある。

(2) マタ 10:34~39

Mat 10:34 わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っははいけません。わたしは、平和ではなく剣をもたらすために来ました。

Mat 10:35 わたしは、人をその父に、娘をその母に、嫁をその姑に逆らわせるために来たのです。

Mat 10:36 そのようにして家の者たちがその人の敵となるのです。

Mat 10:37 わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。

Mat 10:38 自分の十字架を負ってわたしに従って来ない者は、わたしにふさわしい者ではありません。

Mat 10:39 自分のいのちを得る者はそれを失い、わたしのために自分のいのちを失う者は、それを得るのです。

①愛する者の中にはキリストの福音に敵対する者もいる。

②キリストの福音は、家族を2分する。

③クリスチャンの優先順位は、先ずキリスト、次に家族である。

④十字架を負うとは、家族からの憎しみや死の可能性さえも受容すること。

⑤結果的に、その人はキリストにあるいのちを見出す。